Oracle Directory Server Enterprise Edition 向け Oracle® Fusion Middleware リリースノート

11*g* Release 1 (11.1.1)

Part No: 821–1719
2010 年 8 月

Copyright © 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

100817@24661

目次

はじめに 7

1 **Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1)** の新機能 19
Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) の新機能 19
Directory Server の新機能 20
Directory Proxy Server の新機能 22
Directory Server Enterprise Edition での動作変更 23
製品配置の変更 23
LDIF のレプリカ更新ベクトル 23
インストールディレクトリから Sun Microsystems プラグインのライブラリをロードする 23
最適化されたインポート 24
RFC 4522 への準拠 24
RFC 4511 への準拠 24
新しい管理コマンドと機能 25
バイナリバックアップ 25
高速になったインデックスの再生成 25
インデックスの状態 25
ルート DSE での SSL 暗号化を有効化 26

2 互換性について 27
プラットフォームのサポート 27
システム仮想化サポート 28
ソフトウェアのサポート 29
削除されたソフトウェアコンポーネント 29
Directory Service Control Center の変更点 29
互換性についての注意事項 30

3 インストールの注意点 33
ソフトウェアの入手 33
ハードウェア要件 34
Directory Server Enterprise Edition のハードウェア要件 34
Identity Synchronization for Windows のハードウェア要件 35
オペレーティングシステムの要件 36
Directory Server Enterprise Edition のオペレーティングシステム要件 36
Identity Synchronization for Windows のオペレーティングシステム要件 38
ソフトウェア依存関係の要件 40
Directory Server Enterprise Edition のソフトウェア依存関係の要件 40
Directory Service Control Center でサポートされているアプリケーションサーバー 40
サポートされている JDBC データソース 41
Directory Service Control Center でサポートされるブラウザ 41
ファイアウォール環境での Identity Synchronization for Windows および Directory Server プラグインの要件 42
Identity Synchronization for Windows のソフトウェア依存関係の要件 42
ファイアウォール環境での Identity Synchronization for Windows の要件 42
インストールに必要な特権と資格 44
Directory Server Enterprise Edition のインストールに必要な特権 44
Identity Synchronization for Windows のインストールに必要な特権と資格 44
Identity Synchronization for Windows のインストールに関する注意事項 45

4 **Directory Server** の修正されたバグと既知の問題点 47
Bugs Fixed in This Release 47
Directory Server の既知の問題点と制限事項 58
Directory Server の制限事項 58
Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) の既知の問題点 61

5 **Directory Proxy Server** の修正されたバグと既知の問題点 71
Bugs Fixed in This Release 71
Directory Proxy Server の既知の問題点と制限事項 80
Directory Proxy Server の制限事項 80
Directory Proxy Server 11*g* Release 1 (11.1.1) の既知の問題点 81

6 Directory Server Resource Kit の修正されたバグと既知の問題点 87
Directory Server Resource Kit で修正されたバグ 87
Directory Server Resource Kit の既知の問題点と制限事項 87

はじめに

このリリースノートでは、リリース時点で判明している、重要な情報を示します。ここでは、新機能や拡張機能、既知の制限事項や問題点、技術的な注意事項、その他の関連情報を説明します。Directory Server Enterprise Edition をお使いになる前に、このリリースノートをお読みください。

内容の紹介

このマニュアルは、以下の章で構成されています。

第 2 章「互換性について」では、以前のバージョンのコンポーネント製品との互換性や、Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアに対して今後予定されている変更について説明しています。

第 3 章「インストールの注意点」では、ハードウェアおよびソフトウェアの要件など、インストールに関連する事項を扱っています。

第 4 章「Directory Server の修正されたバグと既知の問題点」では、Directory Server の修正点および問題点の一覧を示しています。

第 5 章「Directory Proxy Server の修正されたバグと既知の問題点」では、Directory Proxy Server の修正点および問題点の一覧を示しています。

第 6 章「Directory Server Resource Kit の修正されたバグと既知の問題点」では、Directory Server Resource Kit の概要を紹介しています。この章では、Directory Server Resource Kit の修正点および問題点の一覧も示します。

Oracle Directory Server Enterprise Edition のドキュメントセット

このドキュメントセットでは、Oracle Directory Server Enterprise Edition を使用してディレクトリサービスを評価、設計、配備、および管理する方法について説明します。また、Directory Server Enterprise Edition 用クライアントアプリケーションの開発方法についても説明します。Directory Server Enterprise Edition ドキュメントセットは `http://docs.sun.com/coll/1819.3` で入手できます。

次の表に、Directory Server Enterprise Edition のドキュメントセットを構成するドキュメントの一覧を示します。

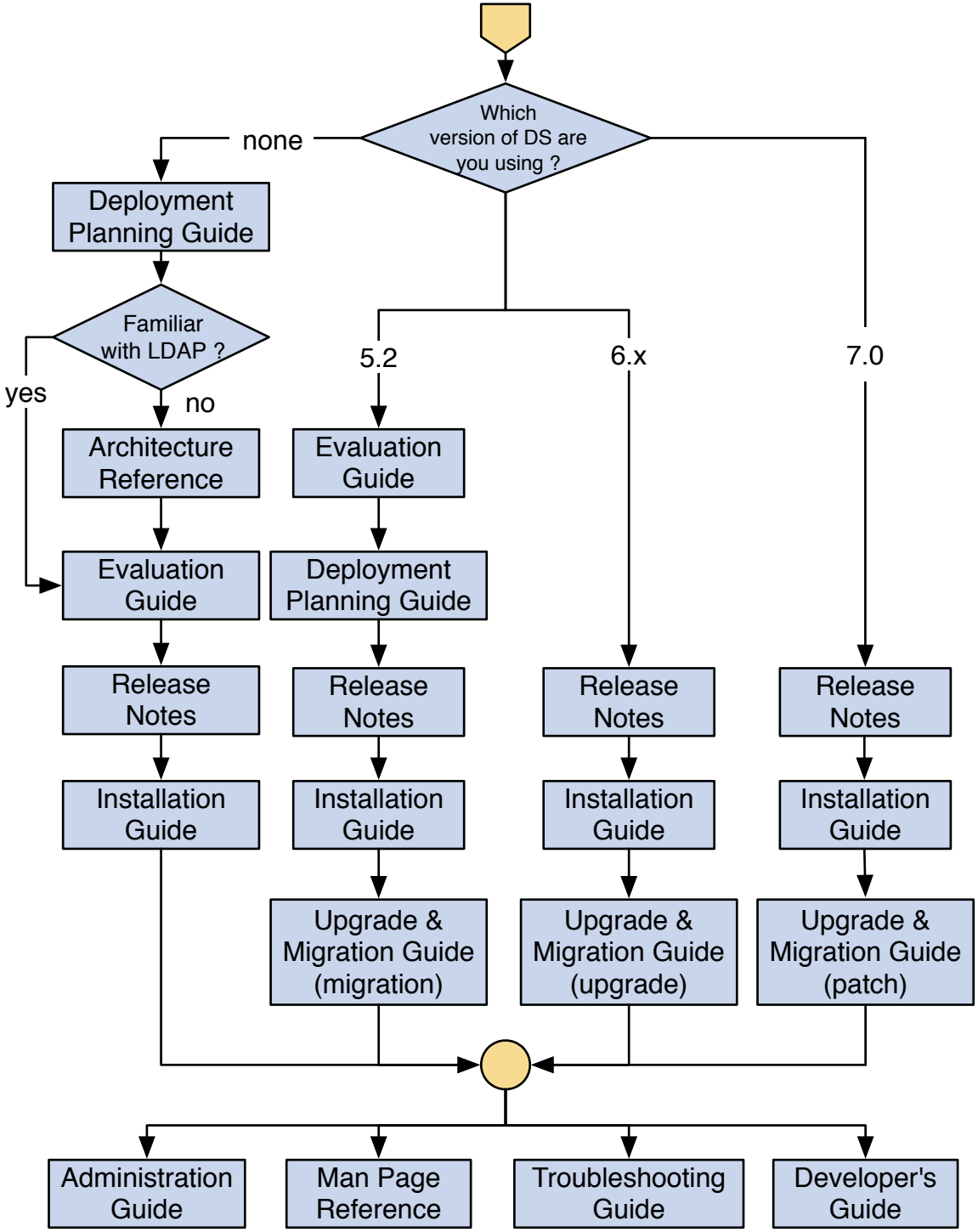
表 P–1 Directory Server Enterprise Edition ドキュメント

ドキュメントタイトル	目次
『Oracle Directory Server Enterprise Edition 向け Oracle Fusion Middleware リリースノート』	既知の問題点を含め、Directory Server Enterprise Edition についての最新情報を提供しています。
『Oracle Fusion Middleware Documentation Center for Oracle Directory Server Enterprise Edition 』	重要情報をすばやく探すのに役立つ、ドキュメントセットの重要な領域へのリンクを提供しています。
『Oracle Fusion Middleware Evaluation Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition 』	このリリースの重要な機能を紹介します。これらの機能の仕組みや提供される利点を、単独システムに実装可能な配備のコンテキストに沿って例示します。
『Oracle Fusion Middleware Deployment Planning Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition 』	Directory Server Enterprise Edition をベースとする、可用性と拡張性に優れたディレクトリサービスを計画および設計する方法について説明します。配備の計画および設計の基本的な概念および原則を提示します。ソリューションのライフサイクルについて検討し、Directory Server Enterprise Edition ベースのソリューションを計画するために使用する概略レベルのサンプルおよび戦略を提供します。
『Oracle Fusion Middleware Installation Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition 』	Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアのインストール方法について説明します。インストール済みソフトウェアの設定方法および設定済みソフトウェアの検証方法を示します。
『Oracle Fusion Middleware Upgrade and Migration Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition 』	version 6 のインストールをアップグレードする手順および version 5.2 を移行する手順を示します。
『Oracle Fusion Middleware Administration Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition 』	Directory Server Enterprise Edition をコマンド行から管理するための手順を示します。 Directory Service Control Center (DSCC) を使用して Directory Server Enterprise Edition を管理する際のヒントおよび手順については、DSCC のオンラインヘルプを参照してください。
『Oracle Fusion Middleware Reference for Oracle Directory Server Enterprise Edition 』	Directory Server Enterprise Edition の技術および概念の基礎を紹介します。コンポーネント、アーキテクチャー、プロセス、および機能について説明しています。
『Oracle Fusion Middleware Man Page Reference for Oracle Directory Server Enterprise Edition 』	Directory Server Enterprise Edition を通じて利用可能なコマンド行ツール、スキーマオブジェクト、およびその他の公開インタフェースについて説明しています。このドキュメントの個別の節を、オンラインマニュアルページとしてインストールすることができます。
『Oracle Fusion Middleware Troubleshooting Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition 』	さまざまなツールを使用して問題の範囲を特定し、データを収集し、問題部分の障害追跡を行う手順について説明しています。

表 P–1 Directory Server Enterprise Edition ドキュメント (続き)

ドキュメントタイトル	目次
『Sun Java System Identity Synchronization for Windows 6.0 Deployment Planning Guide』	Identity Synchronization for Windows の計画と配備に関する一般的なガイドラインやベストプラクティスを示しています。
『Sun Java System Identity Synchronization for Windows 6.0 Installation and Configuration Guide』	Identity Synchronization for Windows をインストールおよび設定する方法を説明しています。
Installation Instructions for Identity Synchronization for Windows 6.0 Service Pack 1	Identity Synchronization for Windows 6.0 SP1 のインストール手順を示しています。
Oracle Fusion Middleware Developer's Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition 11 g Release 1 (11.1.1)	Directory Server Enterprise Edition の一部として提供されるツールおよび API を利用して、ディレクトリクライアントアプリケーションを開発する方法を示します。このマニュアルはドキュメントセットには含まれていませんが、すべてのサンプルコードファイルとともに `example.zip` ファイルにまとめられています。このファイルは次のサイトから入手できます。(`http://www.oracle.com/technology/sample_code/products/oid/index.html`)

Directory Server Enterprise Edition の概要については、次のドキュメントを記載順に確認してください。


Which version of DS are you using ?
none
5.2
6.x
7.0
Deployment Planning Guide
Familiar with LDAP ?
yes
no
Architecture Reference
Evaluation Guide
Evaluation Guide
Deployment Planning Guide
Release Notes
Release Notes
Release Notes
Release Notes
Installation Guide
Installation Guide
Installation Guide
Installation Guide
Upgrade & Migration Guide (migration)
Upgrade & Migration Guide (upgrade)
Upgrade & Migration Guide (patch)
Administration Guide
Man Page Reference
Troubleshooting Guide
Developer's Guide

関連ドキュメント

SLAMD 分散負荷生成エンジンは、ネットワークベースのアプリケーションのパフォーマンスについて負荷テストを実行し、分析するために設計された Java アプリケーションです。このアプリケーションは、LDAP ディレクトリサーバーのパフォーマンスについてベンチマークを実行し、分析するために Sun Microsystems, Inc. によって開発されました。SLAMD は、OSI 認定オープンソースライセンスである Sun Public License に基づいて、オープンソースアプリケーションとして使用できます。SLAMD の詳細については、`http://www.slamd.com/` を参照してください。SLAMD は、java.net プロジェクトでも提供されています。`https://slamd.dev.java.net/` を参照してください。

Java Naming and Directory Interface (JNDI) は、LDAP や DSML v2 による Java アプリケーションから Directory Server へのアクセスに対応しています。JNDI の詳細については、`http://java.sun.com/products/jndi/` を参照してください。『JNDI Tutorial』には、詳しい説明と JNDI の使用例が記載されています。このチュートリアルは、`http://java.sun.com/products/jndi/tutorial/` で参照できます。

Identity Synchronization for Windows は Message Queue を制限されたライセンスで使用します。Message Queue のマニュアルは `http://docs.sun.com/coll/1307.6` から入手できます。

Identity Synchronization for Windows は、Microsoft Windows のパスワードポリシーを管理するための製品です。

- Windows Server 2003 のパスワードポリシーについての情報は、Microsoft TechNet Web サイトで公開されています。
- Microsoft 証明書サービスのエンタープライズルート認証局に関する情報は、Microsoft サポートオンライン Web サイトで公開されています。
- Microsoft システムでの LDAP over SSL の設定に関する情報は、 Microsoft サポートオンライン Web サイトで公開されています。

再頒布可能ファイル

Directory Server Enterprise Edition のファイルは、再頒布できません。

デフォルトパスとコマンドの場所

この節では、ドキュメントで使用するデフォルトのパスについて説明し、オペレーティングシステムや配備タイプによって異なるコマンドの場所を示します。

デフォルトパス

次の表では、このドキュメントで使用するデフォルトのパスについて説明します。インストールされるファイルの詳細な説明については、『Oracle Fusion Middleware Reference for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の第 1 章「Directory Server Enterprise Edition File Reference」を参照してください。

表 P–2 デフォルトパス

プレースホルダ	説明	デフォルト値
install-path	Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアのベースインストールディレクトリを表します。	解凍機能を使用して ZIP 形式の配布パッケージからインストールする場合、*install-path* は *current-directory*/`dsee7` になります。 ネイティブパッケージ配布からインストールする場合、*install-path* は `/opt/SUNWdsee7` になります。
instance-path	Directory Server または Directory Proxy Server のインスタンスのフルパスを表します。 このマニュアルでは、Directory Server には `/local/dsInst/` を、Directory Proxy Server には `/local/dps/` を使用します。	デフォルトパスはありません。インスタンスパスは、常にローカルファイルシステム上に存在するようにします。 Solaris システムでは、`/var` ディレクトリが推奨されます。
serverroot	Identity Synchronization for Windows のインストール先の親ディレクトリを表します	インストールごとに異なります。Directory Server および Directory Proxy Server では、*serverroot* の概念が存在しなくなったことに注意してください。
`isw-`*hostname*	Identity Synchronization for Windows インスタンスのディレクトリを表します	インストールごとに異なります
/path/to/`cert8.db`	Identity Synchronization for Windows におけるクライアントの証明書データベースのデフォルトパスおよびファイル名を表します	*current-working-dir*/`cert8.db`

表 P–2 デフォルトパス (続き)

プレースホルダ	説明	デフォルト値
serverroot/isw-*hostname*/logs/	システムマネージャー、各コネクタ、およびセントラルロガーのログファイルを Identity Synchronization for Windows がローカルに保存する場所のデフォルトパスを表します	インストールごとに異なります
serverroot/isw-*hostname*/logs/central/	Identity Synchronization for Windows セントラルログファイルのデフォルトパスを表します	インストールごとに異なります

コマンドの場所

この節で示す次の表は、Directory Server Enterprise Edition のマニュアルで使用されるコマンドの場所の一覧です。各コマンドの詳細については関連するマニュアルページを参照してください。

表 P–3 コマンドの場所

コマンド	ネイティブパッケージ配布	ZIP 形式の配布
cacaoadm	/usr/sbin/cacaoadm	Solaris、Linux、HP—UX — *install-path*/bin/cacaoadm
		Windows - *install-path*\bin\cacaoadm.bat
certutil	/usr/sfw/bin/certutil	*install-path*/bin/certutil
dpadm(1M)	*install-path*/bin/dpadm	*install-path*/bin/dpadm
dpconf(1M)	*install-path*/bin/dpconf	*install-path*/bin/dpconf
dsadm(1M)	*install-path*/bin/dsadm	*install-path*/bin/dsadm
dsccmon(1M)	*install-path*/bin/dsccmon	*install-path*/bin/dsccmon
dsccreg(1M)	*install-path*/bin/dsccreg	*install-path*/bin/dsccreg
dsccsetup(1M)	*install-path*/bin/dsccsetup	*install-path*/bin/dsccsetup
dsconf(1M)	*install-path*/bin/dsconf	*install-path*/bin/dsconf
dsmig(1M)	*install-path*/bin/dsmig	*install-path*/bin/dsmig
dsutil(1M)	*install-path*/bin/dsutil	*install-path*/bin/dsutil
entrycmp(1)	*install-path*/bin/entrycmp	*install-path*/bin/entrycmp

表 P–3　コマンドの場所　　(続き)

コマンド	ネイティブパッケージ配布	ZIP 形式の配布
fildif(1)	*install-path*/bin/fildif	*install-path*/bin/fildif
idsktune(1M)	提供されていません	ZIP 形式の配布パッケージを解凍したディレクトリにあります
insync(1)	*install-path*/bin/insync	*install-path*/bin/insync
ldapsearch(1)	*install-path*/dsrk/bin/ldapsearch	*install-path*/dsrk/bin/ldapsearch
repldisc(1)	*install-path*/bin/repldisc	*install-path*/bin/repldisc

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P–4　表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% **su** password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm *filename* と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% **grep '^#define ** **XV_VERSION_STRING'**

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

  machine_name% **command y|n** [*filename*]

- C シェルのスーパーユーザー

  machine_name# **command y|n** [*filename*]

- Bourne シェルおよび Korn シェル

  $ **command y|n** [*filename*]

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

  # **command y|n** [*filename*]

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

記号の表記規則

次の表は、このマニュアルで使用される記号の一覧です。

表 P–5 記号の表記規則

記号	説明	例	意味
[ ]	省略可能な引数やコマンドオプションが含まれます。	ls [-l]	-l オプションは省略可能です。
{ | }	必須のコマンドオプションの選択肢を囲みます。	-d {y|n}	-d オプションでは、y か n のどちらかの引数を使用する必要があります。
${ }	変数参照を示します。	${com.sun.javaRoot}	com.sun.javaRoot 変数の値を参照します。
-	同時に押すキーを連結します。	Control-A	Ctrl キーと A キーを同時に押します。

表 P–5 記号の表記規則 (続き)

記号	説明	例	意味
+	連続して押すキーを連結します。	Ctrl+A+N	Ctrl キーを押し、離してから、以後のキーを続けて押します。
→	グラフィカルユーザーインタフェースで選択するメニュー項目を示します。	「ファイル」→「新規」→「テンプレート」	「ファイル」メニューから「新規」を選択します。「新規」サブメニューから、「テンプレート」を選択します。

ドキュメント、サポート、トレーニング

次の追加リソースに関する情報を入手できます。

- ドキュメント (`http://docs.sun.com`)
- サポート (`http://www.sun.com/support/`)
- トレーニング (`http://education.oracle.com`) – 左のナビゲーションバーにある Sun リンクをクリックしてください。

ご意見をお寄せください

Oracle では、ドキュメントの品質と実用性についてお客様からのご意見、ご要望をお待ちしております。お客様からのご意見は改訂プロセスにおける重要な要素です。

- 誤りがありましたか。
- 情報は明確に記述されていますか。
- 追加情報が必要ですか。それはどの部分ですか。
- 例は正しいですか。追加の例が必要ですか。
- マニュアルのどのような点がもっともよいと思われましたか。

誤りのご指摘や改善のご要望がありましたら、appserverdocs_us@oracle.com に電子メールでお寄せください。その際、マニュアルのタイトルとパート番号のほか、章、節、およびページ番号もあれば記載してください。返信をご希望の場合はお知らせください。

Oracle Technology Network では、Oracle ソフトウェアに関する広範なリソースを提供しています。

- ディスカッションフォーラムでは、技術的な問題と解決方法についての情報交換を行えます。
- Oracle By Example では、手順を追った実践的なチュートリアルを利用できます。
- サンプルコードをダウンロードできます。
- Oracle Technology Network では、Oracle 製品に関する最新のニュースと情報を入手できます。

また、Oracle ソフトウェアに関連する追加のサポートや情報提供を受けることもできます。

- My Oracle Support (登録が必要)
- Oracle サポートサービス

第 1 章

Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) の新機能

これらのリリースノートでは、公開された時点での最新情報を示しています。英語版のリリースノートの公開日がほかの翻訳版より新しい場合、ほかの翻訳版には記載されていないより新しい情報で内容が更新されている可能性があります。最新情報を得るには、英語版のリリースノートを参照してください。

この節では、次の情報について説明します。

- 19 ページの「Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) の新機能」
- 23 ページの「Directory Server Enterprise Edition での動作変更」

Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) の新機能

Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) は、Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 の商標を変更したリリースです。このリリースはパッチリリースに相当します。このリリースでは、新しい機能は提供されませんが、以前にリリースされたパッチとホットフィックスに組み込まれている重要なセキュリティー関連の問題や特定の問題が修正されます。詳細については、「第 4 章「Directory Server の修正されたバグと既知の問題点」」、「第 5 章「Directory Proxy Server の修正されたバグと既知の問題点」」、および『Installation Instructions for Identity Synchronization for Windows 6.0 Service Pack 1』の「Bugs Fixed in Identity Synchronization for Windows 6.0 Service Pack 1」を参照してください。

また、このリリースでは、サポートされるプラットフォームの一覧がほとんどの Oracle Fusion Middleware 製品と揃えられています。サポートされるプラットフォームの変更の詳細については、「27 ページの「プラットフォームのサポート」」、「28 ページの「システム仮想化サポート」」、および「36 ページの「オペレーティングシステムの要件」」を参照してください。

Oracle Virtual Directory LDAP アダプタを Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) で動作するように構成できます。詳細については、『Administrator's Guide for Oracle Virtual Directory』の「LDAP Adapter Templates」を参照してください。

Oracle Directory Integration Platform を使用して、Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) をほかのディレクトリサーバーと同期することもできます。詳細については、『Administrator's Guide for Oracle Directory Integration Platform』の「Configuring Directory Synchronization」を参照してください。

このリリースでは、NSS 3.12.6 ライブラリが組み込まれたことにより、セキュリティーパラメータの SSL 再ネゴシエーションに関連する重要なセキュリティーバグが修正されます。ただし、NSS 3.12.6 には、再ネゴシエーションの修正に関して以前のバージョンの NSS との互換性がありません。したがって、安全な再ネゴシエーションの修正を利用するには、トポロジ内のすべてのサーバーで NSS 3.12.6 にアップグレードする必要があります。NSS のバージョンが混在しているトポロジは、再ネゴシエーションを使用しなければ期待どおりに動作します。ただし、混在トポロジで安全な再ネゴシエーションが要求された場合、NSS ライブラリのバージョンが異なっているサーバーの間では、暗号化されたトラフィックが停止されます。

マニュアルと製品のどちらにも、Sun Microsystems という記述が残っている場合があります。ほとんどの場合、これらは Oracle Corporation と読み替えることができます。version 7.0.1 という記述が見受けられることもあります。これは製品の内部バージョンでしたが、どの場合でも 11g Release 1 (11.1.1) または version 11.1.1.3.0 と読み替えることができます。

注 – これらのリリースノートには、Identity Synchronization for Windows の既知の問題点の一覧は含まれなくなりました。既知の問題の完全なリスト、および最新のサービスパックで修正されたバグの説明については、『Installation Instructions for Identity Synchronization for Windows 6.0 Service Pack 1』の「Known Issues and Limitations」を参照してください。

この節の残り部分は、Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 で提供された新機能に関する説明です。

Directory Server の新機能

この節では、Directory Server 7.0 で提供された新機能について説明します。

新しい DB エントリの形式

データベースエントリのサイズを縮小するため、既存のデータベースエントリの形式が変更されます。エントリの内部表現が ASCII LDIF 形式からタグ付きバイナリの形式に変更されました。データベースに格納されているデータは、`dn:` で始まるという特徴がなくなり、値となるエントリの 1 バイト目が `0xE0` より大きくなることもありません。つまり、`0xE0` 〜 `0xFF` までのすべての値は、内部用として予約されていると見なされます。

互換性の理由から、エントリは LDIF とバイナリ表現の混在が可能ですが、変更操作をするとエントリはバイナリ形式で書き込まれます。

サフィックスエントリデータはディスクに書き込む際に圧縮して、ディスク容量を最小化できます。`compression-mode` および `compression-entries` プロパティーに従って圧縮が有効になっています。

詳細については、『Oracle Fusion Middleware Developer's Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の第 8 章「Writing Entry Store and Entry Fetch Plug-Ins」を参照してください。

コピー不要の復元

ディスク容量を節約するため、ファイルをコピーする代わりに移動することでサーバーを復元できます。`restore` コマンドでフラグを設定することで、コピー不要の復元が実行できます。

詳細については、『Oracle Fusion Middleware Administration Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の「Binary Restore」を参照してください。

Windows での IPv6 サポート

Windows システムにインストールされたサーバーインスタンスがインターネットプロトコル version 6 をサポートするようになりました。同様に、サポートされているほかのオペレーティングシステムにインストールされたサーバーインスタンスも IPv6 をサポートします。

アカウント管理のための新しいコマンド

`dsutil` コマンドによって、以前は `ns-activate`、`ns-inactivate`、および `ns-accountstatus` の各コマンドが提供していた機能を実行できるようになりました。

新しいバックアップ機能

`--flags verify-db` オプションが指定された場合、バックアップ操作はアーカイブされたデータに対してデータベース検査を実行します。

インデックスフィルタアナライザ

インデックスフィルタアナライザは、インデックスを生成可能な最大エントリ数 (`ALLID` しきい値) を超過したエントリ数があるインデックスリストを特定し、そうしたインデックスリストを使用してユーザー検索を監視します。インデックスフィルタアナライザを有効にするには、`dsconf enable-index-filter-analyzer` コマンドを使用します。

Directory Proxy Server の新機能

この節では、Directory Proxy Server 7.0 で提供された新機能について説明します。

エントリ集約

エントリ集約によって次のことが可能になります。

- 二次データビューへのクエリーを最適化する
- 必要な場合、二次データビューを最初に検索する
- 大きな結果セット (VLV コントロール) 処理の改善
- 二次データソースに対する要求をグループ化する

JDBC データビュー

JDBC データビューが Date 型と Blob 型をサポートするようになりました。

最適化された監視とログ記録

Directory Proxy Server は、複数コアのシステムに対してより効率的に動作する、新しいログ記録エンジンの実装を使用します。

接続ハンドラ

- LDAP グループに基づく新しい条件
- 1 秒あたりの最大スループットの管理

コーディネーターデータビュー

企業の合併など、より多くのユースケースに対応するための新しい種類のデータビュー。

詳細については、『Oracle Fusion Middleware Administration Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の「Creating and Configuring Coordinator Data Views」を参照してください。

配布アルゴリズム

『Oracle Fusion Middleware Administration Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の「Configuring Pattern Matching Distribution Algorithm」に記載されているように、強化された正規表現配布アルゴリズムが追加されました。

結合データビューの検索

結合データビューの検索パフォーマンスを最適化するため、Directory Proxy Server は仮想リスト表示 (vlv) インデックスを活用します。これにより、あるデータソースには多数のエントリがあり、ほかのデータソースにはごく少数のエントリがあるために、検索がサイズの上限に達するという事態を回避しやすくなります。VLV インデックスを使用するには、『Oracle Fusion Middleware Reference for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の「Browsing Index」を参照してください。

Directory Server Enterprise Edition での動作変更

この節では、Sun Directory Server Enterprise Edition 7.0 で加えられた動作変更について説明します。

製品配置の変更

Directory Server Enterprise Edition 製品の配置は次のように変更されました。

- すべてのコマンドは、*install-path*`/dsee7/bin` に配置されました。
- プラグインは、*install-path*`/dsee7/lib` に配置されました。

ファイルの場所の完全なリストについては、『Oracle Fusion Middleware Reference for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の「Software Layout for Directory Server Enterprise Edition」を参照してください。

LDIF のレプリカ更新ベクトル

Directory Server 7.0 から、エクスポート処理 (`dsadm export` コマンド) は常に、エクスポートした LDIF ファイル内の最後のエントリとしてレプリカ更新ベクトル (RUV) を配置します。

インストールディレクトリから Sun Microsystems プラグインのライブラリをロードする

Directory Server は Sun Microsystems プラグインのライブラリをソフトウェアがインストールされているパスからロードします。ライブラリは、LDIF に記載されているパスからはロードされなくなります。

最適化されたインポート

グローバルインポート処理

新しいスレッドモデルにより、マルチコアマシンに対するインポートのパフォーマンスが向上しました。

並列マージ

インポートがマルチパスである場合、インデックスと一時ファイルを保持するのに十分なメモリーがあればインデックスのマージは並行して行われます。インデックスの並列マージによって、パフォーマンスが向上します。

RFC 4522 への準拠

検索操作によって、バイナリ転送を必要とする構文を持つ属性が返された場合、`;binary` 修飾子を属性名に付加します。RFC 4522 への準拠を無効にするには、`compat-flag` プロパティーを `no-rfc4522` に設定します。

RFC 4511 への準拠

Oracle Directory Server Enterprise Edition 11g Release 1 (11.1.1) の新機能

LDAP の RFC 4511 では、「and」フィルタ選択は、そのすべての構成要素フィルタが TRUE と評価される場合に TRUE と評価されると述べられています。実際には、「and」フィルタ選択の結果は、単独で適用された個々の構成要素フィルタすべてに一致する一連のエントリです。

Directory Server の以前のバージョンでは、`(&(attr>=v1)(attr<=v2))` という形式のフィルタは、`v1...v2` の範囲の値を持つエントリとして解釈されていました。複数値属性の場合、エントリの値が両方の構成要素フィルタに一致しても、値自体は `v1` より小さい場合や `v2` より大きい場合もあるため、この解釈は限定的すぎます。

Directory Server では、`compat-flag` が `no-rfc4511` に設定された場合を除き、デフォルトで RFC 4511 の動作が実装されるようになりました。

新しい管理コマンドと機能

この節では、管理コマンドの動作変更について説明します。

- dsadm および dpadm コマンドは、ローカルで実行しているサーバーを一覧表示および停止するために、新しい list-running-instances および stop-running-instances オプションを提供します。
- dsadm および dpadm コマンドは、証明書を管理するための新しいオプションを提供します。--validity および --keysize オプションはdsadm(1M)およびdpadm(1M)で説明されています。
- dsadm コマンドは、証明書を管理するための追加のオプションも提供しています。--sigalg、--phone、--email、および --dns オプションはdsadm(1M)で説明されています。
- dpadm set-flags コマンドは 2 つの新しいフラグ jvm-path および server-umask をサポートします。これらについてはdpadm(1M)で説明されています。
- Directory Server Enterprise Edition の以前のバージョンではいくつかのコマンドが利用できましたが、それらの機能はほかのコマンドによって提供されるようになりました。『Oracle Fusion Middleware Upgrade and Migration Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の「Command Line Changes」で説明しています。
- いくつかのコマンドが Directory Server Enterprise Edition から削除されました。『Oracle Fusion Middleware Upgrade and Migration Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の「Command Line Changes」で説明しています。

バイナリバックアップ

バイナリバックアップでは、データベースの復旧を実行するバックアップファイルが変更され、バックアップトランザクションログがバックアップデータベースにフラッシュされます。バックアップをそのまま残すには、--flags no-recovery オプションを使用します。

高速になったインデックスの再生成

インデックスの再生成はより効率的に実行されるようになり、最新のインポート手法や速度の向上を繰り返し使えるようになりました。

インデックスの状態

dsconf info コマンドは、設定変更のあとなどに、どの属性のインデックスを再生成する必要があるかを示します。

ルート DSE での SSL 暗号化を有効化

ルート DSE には、セキュリティーライブラリでサポートされている暗号の一覧が含まれています。リリース 7.0 では、ルート DSE には `enabledSSLCiphers` 属性での SSL ネゴシエーションに利用できる暗号も含まれていて、デフォルトでサポートされているすべての暗号のサブセットになっています。

第 2 章

互換性について

この章では、Directory Server Enterprise Edition コンポーネント製品から削除されたか、または非推奨となった機能について説明します。また、Directory Server Enterprise Edition コンポーネント製品の機能のうち、削除される可能性がある機能と非推奨となる可能性がある機能についても説明します。

この章では、次のトピックについて説明します。

- 27 ページの「プラットフォームのサポート」
- 29 ページの「ソフトウェアのサポート」
- 30 ページの「互換性についての注意事項」

インタフェースの安定性の度合いについては、『『Oracle Fusion Middleware Man Page Reference for Oracle Directory Server Enterprise Edition』』において、マニュアルページのエントリごとに示されています。

プラットフォームのサポート

Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) では、次のプラットフォームのサポートが削除されました。

- Open Solaris 2009.06
- Windows 2000
- Red Hat Advanced Server 3.0
- J2SE プラットフォーム 1.4 および 1.5
- SUSE 9
- Solaris 10 (x86、32 ビット)
- Windows 用のネイティブパッケージインストール
- Red Hat 用のネイティブパッケージインストール
- HP-UX 用のネイティブパッケージインストール

Solaris 用のネイティブパッケージインストールは引き続きサポートされます。

サポートされなくなったプラットフォームに Directory Server Enterprise Edition をインストールしている場合は、お使いのオペレーティングシステムを次の表に概要が示されているバージョンにアップグレードしてください。

以前のオペレーティングシステムのバージョン	**Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1)** のインストールに必要な最小のオペレーティングシステムバージョン
Red Hat Enterprise Linux 3 (x86)	Red Hat Enterprise Linux 4 (x86)
Red Hat Enterprise Linux 3 (x64)	Red Hat Enterprise Linux 4 (x64) または Oracle Enterprise Linux 4 (x64)
SUSE Linux Enterprise Server 9 (32 ビット)	SUSE Linux Enterprise Server 10 (32 ビット)
SUSE Linux Enterprise Server 9 (x64)	SUSE Linux Enterprise Server 10 (x64)
Microsoft Windows 2000 Server	Microsoft Windows Server 2003 R2
Microsoft Windows 2008 Server	Microsoft Windows Server 2008 R2
Hewlett Packard HP-UX 11.11	Hewlett Packard HP-UX 11.23

このリリースでは、次の新しいプラットフォームがサポートされています。

- Oracle Enterprise Linux 4 オペレーティングシステム (x64)
- Oracle Enterprise Linux 5 U3 オペレーティングシステム (x64)
- Red Hat Enterprise Linux 5 U3 オペレーティングシステム (x 64)

サポートされているすべてのオペレーティングシステムの詳細については、「36 ページの「オペレーティングシステムの要件」」を参照してください。

システム仮想化サポート

システム仮想化は、共有ハードウェア上で複数のオペレーティングシステム (OS) インスタンスを個別に動作させるためのテクノロジです。機能的には、仮想化環境で動作する OS に配備されるソフトウェアは、ベースとなるプラットフォームが仮想化されていることを認識しないのが一般的です。代表的なシステム仮想化環境および OS を組み合わせていくつかのテストが実施されています。テストの目的は、適切にサイジングおよび設定された仮想化環境上で、仮想化されていないシステム上での動作と同様に製品が正常な動作を継続することの検証です。

このリリースでは、Oracle VM テクノロジで動作する OS がすでに Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) ソフトウェアでネイティブでサポートされている場合、その OS はサポートされます。OS およびハードウェアのすべての組み合わせが認定されているわけではありません。サポートは、ベースとなる Oracle VM テク

ノロジ実装に依存します。Oracle VM テクノロジでの Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) ソフトウェアの本稼働配備については、広範囲なテストは行われていません。

このリリースの Directory Server Enterprise Edition でサポートされているハードウェアプラットフォームについては、34 ページの「ハードウェア要件」を参照してください。

このリリースの Directory Server Enterprise Edition でサポートされているオペレーティングシステムと OS バージョンについては、36 ページの「オペレーティングシステムの要件」を参照してください。

Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) は、Solaris 10 Update 5 の SPARC プラットフォームで論理ドメイン (LDoms) をサポートしています。LDoms の詳細については、『Logical Domains (LDoms) 1.0.1 Administration Guide』を参照してください。

注 – Identity Synchronization for Windows を仮想化環境にインストールすることはできません。

ソフトウェアのサポート

削除されたソフトウェアコンポーネント

次の Directory Server Enterprise Edition コンポーネントは提供されなくなりました。

- Directory Editor
- Sun Cluster サポート用のエージェント
- Sun Java Web Console (Lockhart)

Directory Service Control Center の変更点

この節では、Directory Service Control Center (DSCC) の動作の変更点を説明します。

- DSCC は、Sun Web Server 7、GlassFish 3.x、Tomcat 6.x、Oracle WebLogic、および Oracle iPlanet 7.0.9 でサポートされるようになりました。Tomcat 5.5 のサポートは削除されました。
- DSCC の国際化バージョンが利用できるようになりました。
- DSCC が Sun Java Web Console でサポートされなくなりました。
- DSCC が Sun Java System Application Server でサポートされなくなりました。

互換性についての注意事項

この節では、このリリースで削除されたか、または非推奨となった機能の一覧を示し、次のリリースで削除される機能やコマンドを取り上げます。

- パスワードポリシーでは、`DS5-compatible-mode` 相互運用モードが非推奨になりました。このバージョンでは、`DS6–mode` 相互運用モードを使用する必要があります。
- 『Oracle Fusion Middleware Upgrade and Migration Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の「Command Line Changes」で説明されているとおり、version 5.2 の一部のコマンドが Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) から削除されました。
- 次の従来のスクリプトが次の新しいコマンドに置き換えられました。

従来のスクリプト	新しいコマンド
`start-slapd`	`dsadm start`
`ldif2db`	`dsadm import`
`db2ldif`	`dsadm export`
`bak2db`	`dsadm restore`
`db2bak`	`dsadm archive`
`restart-slapd`	`dsadm restart`
`stop-slapd`	`dsadm stop`

  詳細については、『Oracle Fusion Middleware Upgrade and Migration Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の「Command Line Changes」を参照してください。
- レプリケートされたサーバートポロジを移行する前に、『Oracle Fusion Middleware Upgrade and Migration Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の第 7 章「Migrating a Replicated Topology」を確認してください。
- レプリケートされたトポロジで Directory Server インスタンスを作成するとき、トポロジの移行を容易にするために、パスワードポリシーは初期状態で下位互換に設定されます。アップグレード後、より柔軟できめ細やかなパスワードポリシー構成を可能にするために、互換性モードを変更します。ポリシー変換は Directory Server によって管理されます。詳細については、『Oracle Fusion Middleware Administration Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の「Migrating a Deployment to Directory Server 11g Release 1 (11.1.1)」を参照してください。下位互換のパスワードポリシー設定は、将来のリリースで削除される可能性があります。

- Directory Server インスタンスを作成する場合、DN 変更操作のサポートは無効化されています。レプリケーショントポロジ内のすべてのサーバーインスタンスをアップグレードしたあと、DN 変更操作を正常にレプリケートできます。その時点で、各サーバーインスタンスで DN 変更操作のサポートを有効にすることができます。この目的には、`dsconf set-server-prop moddn-enabled:on` コマンドを使用します。

  この機能は、バージョン 5.2 の互換性を確保するために用意されています。

- `db-path` サフィックスプロパティー (`dsconf set-suffix-prop` *suffix-name* `db-path:`*/new/directory* および `dsconf create-suffix --db-path`) は将来のリリースで削除される可能性があります。`db-path` サーバープロパティーを使用してすべてのサフィックスをインスタンスディレクトリ以外のディレクトリに格納します。

- 現在、負荷がかかった場合の `dsadm repack` サブコマンドの安定性に関する問題を解決するための作業が行われています。安全処置として、11*g* Release 1 (11.1.1) リリースの `dsadm repack` サブコマンドは一時的に無効になっています。

  `dsadm repack` サブコマンドを実行した場合は、次のメッセージが表示されます。

  ```
  :[19/Oct/2009:11:51:50 +0200] - WARNING<99999> - conn=-1 op=-1 msgId=-1
  -  The repack function is temporarily disabled for the 7.0 release.
  ```

- 『Oracle Fusion Middleware Developer's Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition 11g Release 1 (11.1.1)』では、プラグイン API の変更点について説明しています。これらの参照先で非推奨であることが示されているインタフェースは、将来のリリースで削除される可能性があります。

注 – このマニュアルはドキュメントセットには含まれなくなりました。すべてのサンプルコードファイルも製品の配布パッケージから削除されました。『Developer's Guide』とサンプルコードファイルは `example.zip` ファイルにまとめられています。このファイルは `http://www.oracle.com/technology/sample_code/products/oid/index.html` から入手できます。

- Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) には Identity Synchronization for Windows のアップデートが含まれています。Identity Synchronization for Windows 6.0 SP1 は Oracle Directory Server Enterprise Edition にバンドルされています。

  Identity Synchronization for Windows をアップグレードする前に、『Oracle Fusion Middleware Upgrade and Migration Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の第 10 章「Migrating Identity Synchronization for Windows」をお読みください。

- Directory Server Resource Kit に対する Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) の変更はありません。

- LDAP ユーティリティーに関する Sun Solaris システムのマニュアルページは、Directory Server Enterprise Edition で提供されるバージョンの LDAP ユーティリティー `ldapsearch`、 `ldapmodify`、`ldapdelete`、および `ldapadd` についての記述がありません。これらのコマンドは、Solaris システムで別々には提供されなくなり、代わりに将来のバージョンのオペレーティングシステムで提供されるコマンドに統合される可能性があります。LDAP クライアントツールのマニュアルページについては、『『Oracle Fusion Middleware Man Page Reference for Oracle Directory Server Enterprise Edition』』を参照してください。

第 3 章

インストールの注意点

この章では、Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアのダウンロードについて説明し、主なインストール要件を示します。

この章では、次のトピックについて説明します。

- 33 ページの「ソフトウェアの入手」
- 34 ページの「ハードウェア要件」
- 36 ページの「オペレーティングシステムの要件」
- 40 ページの「ソフトウェア依存関係の要件」
- 44 ページの「インストールに必要な特権と資格」
- 45 ページの「Identity Synchronization for Windows のインストールに関する注意事項」

ソフトウェアの入手

Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) ソフトウェアは Oracle E-Delivery サイトから次のようにダウンロードできます。

1. ブラウザで Oracle E-Delivery サイト `http://edelivery.oracle.com` を開きます。
2. 使用する言語を選択し、「続行」をクリックします。
3. 「輸出確認」フォームに記入し、「続行」をクリックします。
4. 「メディア・パック検索」ページで次の手順を実行します。
   a. 「製品パックを選択」リストから「Oracle Fusion Middleware」を選択します。
   b. プラットフォームを選択し、「実行」をクリックします。
5. 「Oracle Fusion Middleware 11g Media Pack」を選択し、「続行」をクリックします。
6. 「Oracle Directory Server Enterprise Edition 11g Release 1 (11.1.1.3.0)」を選択し、「ダウンロード」をクリックします。

Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) は、次の配布形態で入手できます。

- ネイティブパッケージ配布 (Solaris のみ)
- ZIP 形式の配布パッケージ (すべてのプラットフォーム)

注 – Identity Synchronization for Windows Version 6.0 SP1 は Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) にバンドルされています。

Identity Synchronization for Windows Version 6.0 SP1 をインストールする前に、『Installation Instructions for Identity Synchronization for Windows 6.0 Service Pack 1』を必ずお読みください。

ハードウェア要件

この節では、Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアのハードウェア要件を示します。

- 34 ページの「Directory Server Enterprise Edition のハードウェア要件」
- 35 ページの「Identity Synchronization for Windows のハードウェア要件」

Directory Server Enterprise Edition のハードウェア要件

Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアの動作には、次のハードウェアが必要です。

コンポーネント	プラットフォーム要件
RAM	1G ～ 2G バイト (評価目的の場合) 最小 4G バイト (本稼働サーバーの場合)

コンポーネント	プラットフォーム要件
ローカルディスク容量	バイナリ用に 400M バイトのディスク容量。UNIX システムの場合、ネイティブパッケージからインストールされるバイナリはデフォルトで `/opt` に配置されます。評価目的の場合、サーバーソフトウェア用にさらに 2G バイトのローカルディスク容量を用意する必要があります。 Directory Server を使用している場合、Directory Server に格納されるエントリがローカルディスク容量を使用することを考慮してください。Directory Server では、NFS マウントされたファイルシステム上にインストールされるログおよびデータベースはサポートされていません。ローカルファイルシステム上の `/var/opt` 内や `/local` 内などの領域に、データベースを収容するための十分な容量を確保する必要があります。一例として、最大で 250,000 個のエントリが存在し、写真などのバイナリ属性がない一般的な本稼働配備で、4G バイトがこの容量の目安となります。 Directory Server は、ログファイル用に 1.2G バイトを超えるディスク容量を使用することがあります。4G バイトという記憶容量はデータベースに対してのみで、ログは含まれていないことに注意する必要があります。 Directory Server は、SAN ディスク記憶装置をサポートしています。SAN ディスクを使用する前に、ディスクのレイアウトや設計を理解しておく必要があります。1 つのディスクから多数のアプリケーションが同時にデータアクセスした場合、システムの書き込みパフォーマンスに影響が出るからです。 Directory Proxy Server では、NFS マウントされたファイルシステムへのインストールはサポートされていません。ローカルファイルシステム上の `/var/opt` 内や `/local` 内などの領域に、サーバーインスタンスとそのインスタンスによって使用されるすべてのファイルを収容できる十分な容量を確保する必要があります。 Directory Proxy Server は、ログファイル用に 1.2G バイトを超えるディスク容量を使用することがあります。

Identity Synchronization for Windows のハードウェア要件

Identity Synchronization for Windows ソフトウェアの動作には、次のハードウェアが必要です。

コンポーネント	プラットフォーム要件
RAM	コンポーネントがインストールされるすべての場所に 512M バイト (評価目的の場合)。より多くの RAM を搭載したハードウェアを推奨します。

コンポーネント	プラットフォーム要件
ローカルディスク容量	400M バイトのディスク容量 (最小構成、Directory Server との同時インストール時)。

オペレーティングシステムの要件

この節では、Directory Server Enterprise Edition コンポーネント製品をサポートするために必要なオペレーティングシステム、パッチ、およびサービスパックを示します。

Directory Server Enterprise Edition のオペレーティングシステム要件

Directory Server Enterprise Edition ソフトウェアの動作確認は、一覧中のオペレーティングシステムの「ベース」、「エンドユーザー」、または「コア」と呼ばれる限定構成ではなく完全インストールを使用して実施しています。一部のオペレーティングシステムでは、次の表に示されている追加のサービスパックまたはパッチが必要な場合があります。

Directory Server Enterprise Edition でサポートされている OS バージョン	サポートされている配布タイプ	必要な追加ソフトウェアとコメント
Solaris 10 U5+ オペレーティングシステム (SPARC、64 ビット、および x64)	ネイティブパッケージおよび ZIP 形式の配布	推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。 ■ SPARC の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。`http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_Recommended.zip` ■ x64 の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。`http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_x86_Recommended.zip`

Directory Server Enterprise Edition でサポートされている OS バージョン	サポートされている配布タイプ	必要な追加ソフトウェアとコメント
Solaris 9 U9+ オペレーティングシステム (SPARC、64 ビット、および x86)	ネイティブパッケージおよび ZIP 形式の配布	推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。 ■ SPARC の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=9_Recommended.zip ■ x86 の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=9_x86_Recommended.zip
Solaris 10 U5+ Trusted Extension オペレーティングシステム (SPARC、64 ビット、および x64)	ネイティブパッケージおよび ZIP 形式の配布	推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。 ■ SPARC の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_Recommended.zip ■ x64 の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_x86_Recommended.zip
Red Hat Enterprise Linux 5 UL3+ オペレーティングシステム (x64)	ZIP 形式の配布	追加のパッチは不要です。
Red Hat Enterprise Linux 4 UL8+ オペレーティングシステム (x64 および x86)	ZIP 形式の配布	追加のパッチは不要です。
Oracle Enterprise Linux 5 UL3+ オペレーティングシステム (x64)	ZIP 形式の配布	追加のパッチは不要です。
SUSE Linux Enterprise Server 10 SP2+ オペレーティングシステム (x86 および x64)	ZIP 形式の配布	x64 システムで cacao を起動するには、`pam-32bit-9-yyyymmddhhmm.rpm` が必要です。
SUSE Linux Enterprise Server 11 オペレーティングシステム (x64)	ZIP 形式の配布	cacao を起動するには、`pam-32bit-9-yyyymmddhhmm.rpm` が必要です。

Directory Server Enterprise Edition でサポートされている OS バージョン	サポートされている配布タイプ	必要な追加ソフトウェアとコメント
HP-UX 11i(11.23) PA-RISC (64 ビット)	ZIP 形式の配布	追加のパッチは不要です。
Microsoft Windows Server 2003 R2+ (x86 および x64)	ZIP 形式の配布	追加のパッチは不要です。
Microsoft Windows Server 2008 R2 (x86 および x64)	ZIP 形式の配布	追加のパッチは不要です。

- Microsoft Windows のすべてのサポートされているバージョンで、Directory Server と Directory Proxy Server は 32 ビットモードでのみ動作し、ファイルシステムタイプは NTFS である必要があります。
- Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) の 32 ビット版は、Microsoft Windows 以外の 64 ビットプラットフォームではサポートされていません。
- サポートされているプラットフォームで新しいサービスパックやアップデートがリリースされた場合、Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) はそれらもサポートします。
- Identity Synchronization for Windows は、HP-UX、SUSE、および Windows 2008 ではサポートされていません。ただし、Identity Synchronization for Windows を使用して Windows 2008 システムと同期することはできます。

注 – SUSE Linux Enterprise Server にインストールするには、いくつかの Java 環境変数を再設定する必要があります。詳細については、『『Oracle Fusion Middleware Installation Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』』を参照してください。

Oracle Directory Server Enterprise Edition 11*g* Release 1 (11.1.1) は Java 1.6 を提供し、サポートします。

Identity Synchronization for Windows のオペレーティングシステム要件

Identity Synchronization for Windows コンポーネントは、次の表に示すバージョンの各種オペレーティングシステム上で動作します。一部のオペレーティングシステムでは、次の表に示されている追加のサービスパックまたはパッチが必要な場合があります。

Identity Synchronization for Windows のサポートされている OS のバージョン	必要な追加ソフトウェアとコメント
Solaris 10 オペレーティングシステム (SPARC および x86 アーキテクチャー)	パッチ: ■ SPARC の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_Recommended.zip ■ x64 の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=10_x86_Recommended.zip
Solaris 9 オペレーティングシステム (SPARC および x86 アーキテクチャー)	パッチ: ■ SPARC の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=9_Recommended.zip ■ x86 の場合、推奨されるパッチクラスタは次のサイトから入手できます。http://sunsolve.sun.com/pdownload.do?target=9_x86_Recommended.zip
Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 4.0 Update 2 (x86)	次の互換性ライブラリを推奨: compat-gcc-32-3.2.3-47.3.i386.rpm compat-gcc-32-c++-3.2.3-47.3.i386.rpm 次の互換性ライブラリが必要: compat-libstdc++-33-3.2.3-47.3.rpm Red Hat を 64 ビットのシステム上で実行している場合でも、32 ビットのシステムライブラリがインストールされます。 これらの互換性ライブラリは、Red Hat のメディアまたは https://www.redhat.com/rhn/rhndetails/update/ から入手できます。
Microsoft Windows 2003 Server Standard Edition	Service Pack 1
Microsoft Windows 2003 Server Enterprise Edition	Service Pack 1

注 – SUSE または HP-UX システムでは Identity Synchronization for Windows はサポートされていません。

ソフトウェア依存関係の要件

- 40 ページの「Directory Server Enterprise Edition のソフトウェア依存関係の要件」
- 40 ページの「Directory Service Control Center でサポートされているアプリケーションサーバー」
- 41 ページの「サポートされている JDBC データソース」
- 41 ページの「Directory Service Control Center でサポートされるブラウザ」
- 42 ページの「ファイアウォール環境での Identity Synchronization for Windows および Directory Server プラグインの要件」
- 42 ページの「Identity Synchronization for Windows のソフトウェア依存関係の要件」
- 42 ページの「ファイアウォール環境での Identity Synchronization for Windows の要件」

Directory Server Enterprise Edition のソフトウェア依存関係の要件

ソフトウェア依存関係の重要な要件は以下のとおりです。

- Directory Server は暗号化アルゴリズムをネットワークセキュリティーサービス (NSS) レイヤーに依存します。NSS は、Solaris 10 システム上で提供され、暗号化促進デバイスをサポートする Sun 暗号化フレームワークとの組み合わせで正しく機能することが確認されています。
- Microsoft Windows システムでは、Directory Service Control Center が正しく動作するようにするために、ポップアップブロッカを無効にする必要があります。
- Directory Proxy Server は、どの LDAPv3 準拠のディレクトリサーバーでも動作しますが、Directory Server Enterprise Edition のディレクトリサーバーコンポーネントでしかテストされていません。
- Solaris 10 では、`rc.scripts` が推奨されないため、`dsadm autostart` などのコマンドはサポートされていません。これらのタイプの要求を処理するには、代わりに Solaris 10 Service Management Facility (SMF) を使用します。たとえば、`dsadm enable-service` などです。SMF の詳細については、Solaris オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

Directory Service Control Center でサポートされているアプリケーションサーバー

Directory Service Control Center は次のアプリケーションサーバーをサポートします。

- GlassFish 3.x
- Tomcat 6.0+

- Sun Java System Web Server 7.0+
- Oracle WebLogic Server 10.3.3
- Oracle iPlanet Web Server 7.0.9

詳細については、『Oracle Fusion Middleware Installation Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の付録 A「Deploying the DSCC WAR File」を参照してください。

サポートされている JDBC データソース

仮想化については、Directory Proxy Server は、次に示すドライバを使用して、次の JDBC データソースで検証されています。ただし、Directory Proxy Server はすべての JDBC 3 準拠のドライバで動作します。

JDBC データソース	JDBC ドライバ
DB2 v9	IBM DB2 JDBC Universal Driver Architecture 2.10.27
Microsoft SQL Server 2005	sqljdbc.jar 1.2.2323.101
MySQL 5.x	MySQL-AB JDBC ドライバ mysql-connector-java-5.0.4
Oracle 10g Database	Oracle JDBC ドライバ 10.2.0.2.0 (詳細は、80 ページの「Directory Proxy Server の制限事項」を参照)
JavaDB 10.5.3.0	Apache Derby Network Client JDBC ドライバ 10.5.3.0

Directory Service Control Center でサポートされるブラウザ

次の表に、Directory Service Control Center をサポートするブラウザをオペレーティングシステムごとに示します。

オペレーティングシステム	サポートされるブラウザ
Solaris 10 および Solaris 9 (SPARC および x86)	Firefox 3.5+
Red Hat Linux および SUSE Linux	Firefox 3.5+
HP-UX	Firefox 3.5+
Windows 2003/2008	Microsoft Internet Explorer 7 および 8、Firefox 3.5+

ファイアウォール環境での Identity Synchronization for Windows および Directory Server プラグインの要件

各 Directory Server プラグインが、Directory Server コネクタのサーバーポート (コネクタのインストール時に選択したもの) と通信できる必要があります。Directory Server マスターレプリカで動作するプラグインは、Active Directory の LDAP ポート (389) または LDAPS ポート (636) に接続できる必要があります。その他の Directory Server レプリカで動作するプラグインは、マスター Directory Server の LDAP ポートおよび LDAPS ポートと通信できる必要があります。

Identity Synchronization for Windows のソフトウェア依存関係の要件

Identity Synchronization for Windows をインストールする前に、JRE や Message Queue を含め、前提条件の Sun ソフトウェアコンポーネントをインストールする必要があります。

- Identity Synchronization for Windows には JRE は付属しません。

  Identity Synchronization for Windows インストーラの動作には J2SE または JRE 1.5.0_09 が必要です。詳細については、http://java.sun.com を参照してください。

- Identity Synchronization for Windows の動作には、Message Queue 4.3 のインストールと構成が必要です。これは Oracle ソフトウェアのダウンロード から入手できます。「Sun Downloads A-Z Listing」を選択し、「Message Queue 4.3」に移動します。

  Message Queue 3.7 (Java Enterprise System の共有コンポーネントとして提供される) もサポートされています。

  Identity Synchronization for Windows をインストールする場合は、正しいバージョンの Message Queue へのパスを指定する必要があります。それにより、Identity Synchronization for Windows インストールプログラムは、Identity Synchronization for Windows が Message Queue を使用して同期できるように、必要なブローカを Message Queue にインストールします。

ファイアウォール環境での Identity Synchronization for Windows の要件

Identity Synchronization for Windows はファイアウォール環境での実行が可能です。次の各節では、ファイアウォールを通して公開する必要があるサーバーポートの一覧を示しています。

Message Queue の要件

Message Queue はデフォルトで、そのポートマッパーを除くすべてのサービスに対して動的ポートを使用します。ファイアウォールを通して Message Queue ブローカにアクセスする場合、すべてのサービスに対して固定ポートを使用するようにブローカを設定してください。

コアのインストール後、ブローカの設定プロパティー `imq.<service_name>.<protocol_type>.port` を設定する必要があります。特に、`imq.ssljms.tls.port` オプションを設定する必要があります。詳細については、Message Queue のマニュアルを参照してください。

インストーラの要件

Identity Synchronization for Windows インストーラは、設定ディレクトリとして機能している Directory Server と通信できる必要があります。

- Active Directory コネクタをインストールする場合、インストーラが Active Directory の LDAP ポート (389) と通信できる必要があります。
- Directory Server コネクタまたは Directory Server プラグイン (サブコンポーネント) をインストールする場合、インストーラが Directory Server の LDAP ポート (デフォルトで 389) と通信できる必要があります。

コアコンポーネントの要件

Message Queue、システムマネージャー、およびコマンド行インタフェースが、Identity Synchronization for Windows の設定が保存された Directory Server と通信できる必要があります。

コンソールの要件

Identity Synchronization for Windows コンソールが、次に示すコンポーネントと通信できる必要があります。

- Active Directory (LDAP 経由の場合ポート 389、LDAPS 経由の場合ポート 636)
- Active Directory グローバルカタログ (LDAP 経由の場合ポート 3268、LDAPS 経由の場合ポート 3269)
- 各 Directory Server (LDAP または LDAPS 経由)
- 管理サーバー
- Message Queue

コネクタの要件

すべてのコネクタが Message Queue と通信できる必要があります。

加えて、コネクタに関する次の要件が満たされている必要があります。

- Active Directory コネクタが、LDAP 経由 (ポート 389) または LDAPS 経由 (ポート 636) で Active Directory ドメインコントローラにアクセスできる必要があります。
- Directory Server コネクタが、LDAP 経由 (デフォルトポート 389) または LDAPS 経由 (デフォルトポート 636) で Directory Server インスタンスにアクセスできる必要があります。

インストールに必要な特権と資格

この節では、Directory Server Enterprise Edition コンポーネント製品のインストールに必要な特権および資格について説明します。

- 44 ページの「Directory Server Enterprise Edition のインストールに必要な特権」
- 44 ページの「Identity Synchronization for Windows のインストールに必要な特権と資格」

Directory Server Enterprise Edition のインストールに必要な特権

Solaris システムにネイティブパッケージの配布から Directory Server Enterprise Edition をインストールする場合、`root` 特権でインストールを行う必要があります。

ZIP 形式の配布パッケージから Directory Server Enterprise Edition をインストールする場合には、特別な特権は必要ありません。詳細については、『『Oracle Fusion Middleware Installation Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』』を参照してください。

Identity Synchronization for Windows のインストールに必要な特権と資格

Identity Synchronization for Windows をインストールするには、次のコンポーネントに対する資格情報を用意する必要があります。

- 設定 Directory Server。
- 同期対象の Directory Server。
- Active Directory。

詳細については、『Sun Java System Identity Synchronization for Windows 6.0 Installation and Configuration Guide』の第 3 章「Installing Core」を参照してください。

加えて、Identity Synchronization for Windows をインストールするには次の特権が必要です。

- Solaris および Red Hat システムでは、`root` 特権でインストールを行う必要があります。
- Windows システムでは、`Administrator` 特権でインストールを行う必要があります。

注 – テキストベースのインストーラを使用してパスワードを入力するとき、パスワードはプログラムによって自動的にマスクされ、そのまま画面に表示されることはありません。テキストベースのインストーラは Solaris および Red Hat システムでのみサポートされています。

Identity Synchronization for Windows のインストールに関する注意事項

Identity Synchronization for Windows を仮想化環境にインストールすることはできません。

Windows Server 2003 では、デフォルトのパスワードポリシーで強力なパスワードが要求されます。

Identity Synchronization for Windows をインストールする前に、『Sun Java System Identity Synchronization for Windows 6.0 Installation and Configuration Guide』の第 2 章「Preparing for Installation」および『Installation Instructions for Identity Synchronization for Windows 6.0 Service Pack 1 』をお読みください。

第 4 章

Directory Server の修正されたバグと既知の問題点

この章では、Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) のリリース時に入手可能な製品固有の重要情報が含まれています。

この章では、次のトピックについて説明します。

- 47 ページの「Bugs Fixed in This Release」
- 58 ページの「Directory Server の既知の問題点と制限事項」

Bugs Fixed in This Release

この節では、Directory Server 7.0 および Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグの一覧を示します。

表 4–1 Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグ

バグ ID	説明
4987124	エントリの UID は一意である必要はありません。
5087249	`tcp_keepalive_interval` および `tcp_ip_abort_interval` 属性の設定にかかわらず、ネットワーク接続が確立されたままになります。
6181237	エラーログにメッセージ「`WARNING<1028> – Replay of an already seen operation`」が頻繁に発生します。
6192090	`insync` コマンドは、ホスト指定にアットマーク (`@`) が含まれている場合、提供されたホスト指定を解析できません。
6250000	`nsuniqueid` の一意ではない値がレプリケーショントポロジに追加できるため、レプリケーションが失敗する場合があります。
6283810	`ldapmodify` コマンドを使用して属性を削除すると、レプリケーションが失敗する場合があります。

表 4–1 Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6292310	エントリの RDN とエントリの親の属性値を同時に変更すると、ディレクトリサーバーがデッドロック状態になります。
6295323	仮想属性を返す検索で、メモリーリークが発生します。
6299664	はじめて `0` の値で属性を置き換える変更操作を実行すると `NULL` 値になります。
6340125	更新ログの作成と読み取りを同時に行うと、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6341382	SASL セキュリティーが有効になっている場合、読み込みエラーが発生する場合があります。
6356373	間接サービスクラス機能が、ドキュメントの内容と異なり複数のテンプレートをサポートしていません。
6374916	`start-tls` 操作によってサーバーがクラッシュすることがあります。
6382134	サービスクラスが設定されている場合、`ldapcompare` コマンドが失敗する場合があります。
6386671	`ou=groups` に重複したデータを含めることができます。
6479754	ドキュメントの内容と異なり、SSL を設定したあとにレプリケーションが失敗する場合があります。
6490419	`ldapsearch` コマンドが一貫性のない結果を返す場合があります。
6497556	Windows インストールで、`dsadm info` コマンドが `ns-slapd` の誤った所有者を表示する場合があります。
6498501	HP-UX インストールで、監視プラグインが有効になっている場合、`dsadm stop` および `restart` コマンドの動作に一貫性がない場合があります。
6499077	登録されていないサフィックスに余分な文字が含まれている場合に警告メッセージが表示されます。
6500908	ローカライズされた文字を含む名前を持つ証明書が正しく一覧表示または削除されません。
6504891	`dsadm autostart` コマンドが誤ったエラーメッセージを返す場合があります。
6506019	HP-UX インストールで、GNU デバッガ (GDB) が `ns-slapd` プロセスを解放すると、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6536777	UNIX インストールで、レプリケーショントポロジの描画を有効にするには、Application Server の JVM を `-Djava.awt.headless=true` で開始する必要があります。
6542953	複数の ZIP インストールがすべての CACAO ポートを正しく管理しません。
6548467	以前の接続が開いたままになっている場合、DSCC にその URL を通じてアクセスできません。

表 4–1 Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6550543	DSCC は Java 1.6 とともに実行するとエラーを返す場合があります。
6551672	Application Server は「`Unable to create SASL client conn for auth mechanism`」メッセージを返し、CACAO と通信できません。
6557499	JESMF を登録および配備すると、終了したプロセスが作成されます。
6561787	DSCC は `dsinstancemain.confirmreadonly` を誤って解析します。
6562921	Windows サービス管理に渡されたデータの大文字小文字は正しく維持される必要があります。
6572853	サービスクラス統計モニターが誤った結果を表示します。
6579286	Windows インストールで、`PATH` 環境変数にディレクトリが存在しないため、`dsrepair` コマンドが失敗します。
6579820	Windows インストールで、`plcheck` コマンドが失敗します。
6582585	DSCC は、インスタンスパスに複数バイトの文字が含まれている場合に、ログファイルにアクセスできません。
6586725	SSL 上のマルチマスターレプリケーションでメモリーリークが発生します。
6593775	DSCC がすべてのサフィックスを表示しません。
6594285	DSCC が RBAC をサポートできません。
6617936	`repldisc` コマンドで、SSL 上でレプリカに接続する際にエラーが発生した場合、資格が適切に処理されません。
6620846	対話型モードでの `repldisc` コマンドはホスト名およびポート番号を要求するべきではありません。
6620851	対話型モードでの `repldisc` コマンドは接続できないレプリカを要求するべきではありません。
6634048	リバーシブルパスワードプラグインの外部利用が原因で、レプリケーションが失敗する場合があります。
6640285	`dsconf` を使用して旧バージョン形式の更新履歴ログの `nsslapd-changelogmaxage` を設定するとき、調整が行われません。
6640806	インデックスの再生成が完了するまでに必要な時間が長すぎます。
6641259	DSCC が、「レプリケーション設定」タブについての誤ったメッセージを表示します。
6642364	レプリケートされた監査ログにパスワードポリシーの更新がいくつか表示されますが、ローカルの監査ログには表示されません。

表 4–1 Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6644137	DSCC は、サフィックスのプロモート/デモート機能についての誤ったメッセージを表示します。
6644368	`repldisc` コマンドがホスト名の正しい比較に失敗します。
6645742	既知のユーザーが誤ったパスワードでログインに失敗したあと、バージョンの異なるサーバー間でレプリケーションが停止します。
6646794	複数の `targetattr` 値が選択されている場合、DSCC ACI ウィザードが不正な ACI を生成します。
6650039	レプリケーションが正常に停止した場合、レプリケーションマスターが失敗する場合があります。
6651645	`pwdReset` が `true` に設定されている場合、プロキシ承認を通じてパスワードを変更できません。
6659728	アクセスログが有効になっている場合、パフォーマンスが低下する場合があります。
6662669	`dsconf set-log-prop` コマンドがログファイルに対するアクセス権をすぐに変更しません。
6663324	マシンの時刻を設定しなおすと、時間に基づいたログローテーションが停止します。
6663553	ACI 文字列の余分なスペースが、ACI の誤った評価の原因になる場合があります。
6670977	DSCC は長い ACI の表示に失敗します。
6675384	複雑なサービスクラスの配備が原因で、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6680142	複数のテキストファイルで訂正が必要です。
6680718	ローテーションがデッドロックになる場合があります。
6683182	`passwordMaxAge` の値を大きく設定していても、ユーザーパスワードが期限切れになる場合があります。
6683870	DSCC は、バイナリ属性を持つエントリを、変更中に壊す場合があります。
6684993	特定の状況下で、パスワードポリシー属性 `pwdMinLength` が実施されません。
6686131	DSCC は一部のリンクを誤って表示します。
6686199	`uniqueness-among-attribute-set` プラグインが設定されている場合、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6686632	操作前のプラグインが、エントリの削除前にアクセス制御チェックを実行した場合、ディレクトリサーバーが失敗します。
6687304	DSCC によってクライアント認証に加えられた変更が、ディレクトリサーバーを再起動するまで有効になりません。

表 4–1 Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6688454	パススルー認証によって、ディレクトリサーバーを正常に停止できない場合があります。
6688891	監査ログに古いパスワードが含まれます。
6689290	ディレクトリサーバーを起動および停止した場合、DSCC が誤ったメッセージテキストを表示する場合があります。
6689454	データベースが復元され、そのバックアップに非常に大きな更新履歴ログが含まれている場合、エラーが発生する場合があります。
6690684	特定の IP アドレスにバインドされているサーバーインスタンスの登録に失敗する場合があります。
6700232	更新履歴ログにアクセスした場合、ディレクトリサーバーがデッドロックになる場合があります。
6704259	レプリケーション操作に必要な時間が長すぎます。
6704261	マルチパス LDIF インポート操作によって、誤ったインデックスが生成される場合があります。
6704754	許可された値として一覧表示されているにもかかわらず、ログ記録プロパティー `rotation-time` を `undefined` に設定できません。
6705319	DSCC はリフェラルを完全に無効にしません。
6706009	DSCC は、エントリを編集している場合にサブタイプ属性を正しく処理しません。
6707089	ディレクトリサーバーは、ACI の評価中に失敗する場合があります。
6707164	データベースのバイナリ復元によって、レプリケーション更新履歴ログが再生成されます。
6708194	DSCC は、時間に基づいたログローテーションを設定したり、削除ポリシーを「Do Not Automatically Rotate/Delete」に設定したりできません。
6708615	インデックスの生成が有効な状態でサーバーを停止すると、ディレクトリサーバーが失敗します。
6711123	頻繁に更新されないマスターが更新を受け取った場合、バックアップおよびエクスポートのファイルが無効になる場合があります。
6712614	`starttls` コマンドが低速で実行されます。
6715303	仮想属性の値を取得すると、ディレクトリサーバーが失敗します。
6715911	サフィックスの名前にバックスラッシュ (\) が含まれている場合、最上位エントリで新しいサフィックスを作成するとディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6716661	`repl-schedule` プロパティーは複数値であるべきです。

表 4–1 Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6717507	レプリケーションを有効にすると、VLV インデックスが誤って更新される場合があります。
6718308	データベースを復元する場合、DSCC はすべてのメッセージを記録しません。
6721412	ローカライズされた属性を検索する際、特定の部分文字列フィルタが機能しません。
6723208	`mailSieveRuleSource` がユーザーを更新する場合、DSCC によってこの属性が破壊されます。
6726890	更新履歴ログの調整が正しく行われない場合があります。
6731941	同時パススルー認証の数を制限できません。
6735966	Windows インストールで、暗号化が無効に設定されている場合、負荷がかかるとディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6736172	ディレクトリサーバーは `cACertificate` および `crossCertificatePair` プロパティーを 2 度追加できます。
6737227	DN の正規化中、負荷がかかるとディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6737235	匿名 ACI で `targetscope` キーワードが正しく処理されないことがあります。
6739300	大きなスタティックグループを管理している場合、旧バージョン形式の更新履歴ログのサイズが非常に大きくなる場合があります。
6740791	パスワードポリシーがサービスクラスに割り当てられたユーザーを作成する場合、ディレクトリサーバーでメモリーリークが発生する場合があります。
6742347	Windows インストールで、ディレクトリサーバーがサービスとして登録されている場合、シャットダウン中に停止しません。
6746125	ldapsearch コマンドは、存在しないサブタイプで `certificateRevocationList` の検索を実行すると、間違った結果を返す場合があります。
6746574	有効に設定している場合、`nsslapd-return-exact-case` が `certificateRevocationList` の場合に正しく動作しません。
6748713	ディレクトリサーバーが、`idletimeout` が経過する前に接続を閉じる場合があります。
6750238	Windows インストールでは、システムリブート後にディレクトリサーバーが最初に再起動を試みると、システムイベント ID 7022 によって再起動が失敗する場合があります。
6750240	`des-plugin.so` が署名されていません。
6751358	優先順位を指定したレプリケーションが指定したとおりに動作しません。
6751952	更新を今すぐ送信する操作が実行された場合、レプリケーションが停止して再開します。

表 4–1 Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6752586	Identity Synchronization for Windows プラグインが開始しません。
6752738	エクスポートされた LDIF にエントリのレプリカ更新ベクトルが含まれる場合があります。
6753742	マルチマスターレプリケーショントポロジの更新が失敗する場合があります。
6755852	ディレクトリサーバーが、一部の日本語版 Windows システムにインストールできません。
6756240	ポーリングの問題が原因で、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6759200	SASL へのバインドが原因で、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6759886	マルチマスタートポロジ内で DEL 操作がレプリケートされ、コンシューマの監査ログで `modifiersname` が誤って記録されます。
6763091	ロールを通じてユーザーエントリに割り当てられたパスワードポリシーが、ディレクトリサーバーを再起動するまで有効になりません。
6764616	サフィックス名にスペースが含まれている場合、レプリケーションが失敗する場合があります。
6768405	`dsconf` コマンドがハイフン (-) を正しく処理しません。
6771728	MOD CSN (変更シーケンス番号) が以前の ADD CSN よりも小さい場合、レプリケーションが失敗する場合があります。
6772760	ディレクトリサーバーを起動した直後に停止すると、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6772870	`ds-polling-thread-count` が 1 より大きい場合に、コンシューマが同期されなくなる場合があります。
6772918	`dsconf info` コマンドが、ディレクトリサーバーのバージョン番号を常に検出できるとは限りません。
6773132	対象のファイルシステムがいっぱいで `dsconf export` コマンドが失敗した場合、エラーが記録されません。

表 4–1 Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明

6774167	SHA で符号化された `userpassword` 属性値を置換できません。
	
	この問題はこのリリースで修正されていますが、使用しているトポロジ内のすべての Directory Server インスタンスを version 11g R1 (11.1.1) にアップグレードするまで、修正は完了しません。すべての Directory Server インスタンスをアップグレードするまでは、新しい値を追加する前に `userpassword` 属性をいったん削除し、再度追加する必要があります。(この属性の暗号化解除された値がわからないと、既存の値を削除することはできません。)
	
	userpassword 属性とすべてのパスワード値を削除するには、次のコマンドを使用します。
	
	`$ /opt/dsee7/dsrk/bin/ldapmodify -D cn=admin,cn=Administrators,cn=config -w -`
	`Enter bind password:`
	`dn: uid=Aaron.Atrc,ou=People,dc=example,dc=com`
	`changetype: modify`
	`delete: userpassword`
	
	`modifying entry uid=Aaron.Atrc,ou=People,dc=example,dc=com`
	
	`$`
	
	`userpassword` 属性を削除したあと、引き続き使用するパスワード値を含めてこの属性を再度追加できます。
	
	`$ /opt/dsee7/dsrk/bin/ldapmodify -D cn=admin,cn=Administrators,cn=config -w -`
	`Enter bind password:`
	`dn: uid=Aaron.Atrc,ou=People,dc=example,dc=com`
	`changetype: modify`
	`add: userpassword`
	`userpassword: {SSHA}F/F+lmDvsWnS5XIpblmgtExK8Ve2flhjWn6kVQ==`
	
	`modifying entry uid=Aaron.Atrc,ou=People,dc=example,dc=com`
	
	`$`

6777643	`insync` 操作が失敗する場合があります。
6779940	インデックスの `dsconf matching-rule` プロパティーは複数値であるべきです。
6779962	`dsadm export` コマンドは照合プラグインのマッチングルールのインデックスを生成できません。
6783425	複雑なフィルタを処理している場合に `searchrate` コマンドが失敗する場合があります。
6784701	等価インデックスが存在しない場合、部分文字列検索でインデックスが使用されません。

表 4–1 Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6785664	サーバーを Windows サービスとして実行することは、Microsoft の要件に完全には準拠しません。
6789448	`pwd-accept-hashed-pwd-enabled` プロパティーを設定した場合に、エラーが発生する場合があります。
6790060	インデックスを使用しない検索を実行中、ACI 評価に必要な時間が長すぎる場合があります。
6791372	`authrate` コマンドを実行中に、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6793557	DSML プラグインが壊れた DSML メッセージを受け取った場合、ディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6796266	`memberof` プラグインが完全にロードされていない場合、ディレクトリサーバーを停止するとディレクトリサーバーが失敗する場合があります。
6797187	`dsadm add-selfsign-cert` コマンドによって、自己矛盾のある証明書がデータベースに追加されます。
6798026	Windows インストールで、ディレクトリサーバーが検索操作中にクラッシュする場合があります。
6802840	Solaris システムでは、`dsconf` を `rotate-log-now` オプションで実行すると、ログローテーションが停止します。
6806271	マルチマスターレプリケーショントポロジで、ディレクトリサーバーは、8 個より多い値を持つ属性の重複した値の検出に失敗する場合があります。
6809149	データベースエラーからの復旧が原因で、ヒープが壊れる場合があります。
6821219	ACI 評価で、キャッシュされた結果が誤って使用されます。
6821682	`dsconf` コマンドが `dsml-min-parser-count` および `dsml-max-parser-count` プロパティーを正しく処理しません。
6827661	一部の Windows インストールで、`dsadm stop` コマンドによってディレクトリサーバーが停止しません。
6834291	プラグイン操作の順序を変更するべきです。
6834783	VLV インデックスが構成されている場合、インポート操作の直後に VLV エラーが発生します。
6835539	特別なパスワードポリシーを作成または変更すると、DSCC でエラーが発生する場合があります。
6835550	マルチマスターレプリケーショントポロジで、レプリカのインポート後にレプリケーションが失敗する場合があります。
6836463	サーバーの再起動後、旧バージョン形式の更新履歴ログに多数の `error 32` エラーが報告されます。

表 4–1 Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6837200	更新履歴ログの調整スレッドが原因で、ディレクトリサーバーが起動時に失敗する場合があります。
6837808	変更操作中の ACI 評価によって、ヒープが壊れる場合があります。
6838287	Windows システムでは、夏時間の間 `dsadm` と DSCC のログが 1 時間遅れます。
6844176	CoS の使用中にメモリーリークが発生することがあります。
6846588	Windows システムでは、特定の NSS/NSPR バージョン条件でサーバーが SSL 要求に応答しなくなります。
6846693	新規エントリのインポート後に、ディレクトリサーバーがクラッシュする場合があります。
6846934	`ip` キーワードのある ACI が正しく評価されない場合があります。
6848272	角括弧を含む DN がマクロ ACI で処理されません。
6849485	バインドパスワードの変更が必要な場合、DSML の検索中にサーバーがクラッシュします。
6849658	追加操作中に Uniqueness プラグインでサブタイプが処理されません。
6849928	インポートが、レプリカの正常な作成に失敗する場合があります。
6850042	ディレクトリサーバーの ZIP 形式の配布は、デフォルト以外のポート番号を使用するべきです。
6850537	検索要求は、RFC 4522 に従ってバイナリ属性を返すべきです。
6851491	ディレクトリサーバーはサービスクラスの操作中にクラッシュする場合があります。
6852119	レプリケーションメタデータのある LDIF をインポートするときに、メモリーリークが発生する場合があります。
6852500	グループから `uniquemember` を削除すると、削除されたグループメンバーは旧バージョン形式の更新履歴ログのエントリに表示されません。
6853884	`dsmig migrate-config` コマンドによって、強力なパスワードチェックプラグインの設定警告を記録します。
6853981	`pwdLockoutDuration` が経過すると、最初の `pwdFailureTime` 値が削除されます。
6856557	サーバーが DS6 モードの場合、`passwordexpirationtime` 属性はパスワードポリシーで無視されるべきです。
6859942	強力なパスワードポリシーで、拡張 ASCII が正しく処理されません。
6861340	等価インデックスが存在する場合、範囲フィルタを使用して複数値属性を検索すると、一貫性のない検索結果が生成されます。
6867669	`dsmlmodify` 操作を実行するとサーバーがクラッシュします。

表 4–1 Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6867812	ワイルドカードを含む ACI が正しく動作しない場合があります。
6873828	サーバーインスタンスを別のインストールから `dsadm` コマンドで停止しようとしても正しく動作しません。
6878311	UID Uniqueness プラグインは、`dn` または `uid` に含まれている複数の + 記号を処理できません。
6881605	SMF を使用している場合、サーバーのシャットダウン時にデッドロックが発生することがあります。
6887642	パスワード変更のための猶予ログインがプロキシ承認で認識されません。
6892914	CoS プラグインでメモリーリークが発生します。
6894059	特定の条件では、部分レプリケーションで一部のレプリカからの更新のみが評価されます。
6896757	複雑な検索フィルタで、リソース制限ポリシーの `minimum-search-filter-substring-length` が正しく動作しません。
6900781	`dsadm` を使用して復元を実行した場合、データベースはリフェラルモードになるべきです。
6900955	双方向マルチマスタートポロジでパスワード変更を連続して行うと、2 番目のマスターから `passwordexpirationtime` 属性が削除されます。
6902119	マッピングツリーコードでメモリーリークが発生します。
6902127	`id2entry` コードでメモリーリークが発生します。
6904986	`dsccsetup –V` の出力で予期しない `null` が返されます。
6902477	クラッシュ後のサーバーの再起動時に復旧が実行されません。
6905595	凍結モードが期待どおりにリフェラルを返しません。
6906234	バイナリ属性が変更された場合、監査ログに変更全体が記録されません。
6908622	`insync` コマンドの実行時、`-S` オプションで指定したホスト名に大文字が使用されている場合、コアダンプが発生します。
6908942	DSEE 6.x サーバーでレプリケートされたトポロジで、特定の操作を DSEE 6.x サーバーに再現するとサーバーがクラッシュすることがあります。
6912294	マスターでの最初の変更で RUV を更新できません。
6915746	特定の巧妙な LDAP メッセージを送信すると、サーバーがクラッシュする可能性があります。
6918089	`vlv` 属性で `dsadm reindex` を実行すると、サーバーがクラッシュすることがあります。
6920416	`cn=config` の下のエントリを変更するとき、`etime` のあとにコンマが付加されます。

表 4–1 Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグ (続き)

バグ ID	説明
6920520	`cn=config` 内のバインド DN によってサーバーのデッドロックが発生することがあります。
6920573	インデックスの再生成を実行すると、`entryDN` および `parentID` インデックスが一貫性のない状態になる可能性があります。
6921014	旧バージョン形式の更新履歴ログでメモリーリークが発生することがあります。
6921222	`rdn` 属性の変更に関する状態情報が存在しない場合があります。
6923243	`vlv` インデックスの再生成操作を実行しても、予期したとおりに機能しません。
6927120	VLV インデックスの再生成がハングアップします。
6927881	ディレクトリサーバーを Windows サービスとして実行すると、ほかのサービスが無効になることがあります。
6939218	GSSAPI SASL バインドのあとで非同期検索を実行すると、サーバーがクラッシュします。
6940840	Windows システムで、複数のルート DSE 検索を実行するとサーバーがクラッシュします。
6944409	`zh_CN` ロケールで、エラーログ、アクセスログ、または監査ログを表示しようとすると例外が発生します。
6949107	`ds-gather-filter-stats` プロパティーを `on` に設定すると、サーバーがクラッシュすることがあります。
6949854	コマンド `dsadm –A 1d` が最新のログを返しません。
6950645	デフォルトロケールのないマシンに DSCC を配備すると、「`couldn't set locale correctly`」というログメッセージがいくつか生成されます。
6960494	フィルタ統計が有効になっている場合、4 つ以上の異なるフィルタ要素を含むフィルタを使用すると、サーバーがクラッシュすることがあります。

Directory Server の既知の問題点と制限事項

この節では、リリース時点での既知の問題点および制限事項の一覧を示します。

Directory Server の制限事項

DSCC を使用して管理できるサーバーの数

Directory Service Control Center (DSCC) を使用すると、Directory Server および Directory Proxy Server のインスタンスを集中管理できます。DSCC の現在のバージョンは、42 個のサーバーインスタンスの環境でテストされ、一般的な構成をサポートできることが確認されています。

ファイルアクセス権を手作業で変更した場合の問題点

インストール済みの Directory Server Enterprise Edition 製品ファイルのアクセス権を変更すると、場合によってはソフトウェアが正常に動作しなくなる可能性があります。製品ドキュメントの指示に従う場合、または Oracle サポートの指示に従う場合のみ、ファイルのアクセス権を変更してください。

この制限事項に対処するには、適切なユーザーアクセス権およびグループアクセス権を持つユーザーとして製品のインストールおよびサーバーインスタンスの作成を行います。

`cn=changelog` サフィックスをレプリケートした場合の問題点

`cn=changelog` サフィックスのレプリケーションを設定することは可能ですが、実際に設定するとレプリケーションに干渉する可能性があります。`cn=changelog` サフィックスをレプリケートしないでください。`cn=changelog` サフィックスは、旧バージョン形式の更新履歴ログのプラグインによって作成されます。

`LD_LIBRARY_PATH` に `/usr/lib` が含まれる場合に誤った SASL ライブラリがロードされる

`LD_LIBRARY_PATH` に `/usr/lib` が含まれている場合に、誤った SASL ライブラリが使用され、インストール後に `dsadm` コマンドが失敗する原因となります。

`cn=config` 属性の変更には LDAP の置換操作を使用する

`cn=config` に対する LDAP の変更操作では、置換サブ操作のみを使用できます。属性を追加または削除しようとすると、操作は拒否され、エラー `53` (`DSA is unwilling to perform`) が返されます。Directory Server 5 では、属性または属性値の追加または削除が可能でしたが、値の検証を経ることなく `dse.ldif` ファイルに更新が適用され、DSA の内部状態は DSA を停止して再開するまで更新されませんでした。

注 – `cn=config` 設定インタフェースは非推奨となっています。可能な場合は、代わりに `dsconf` コマンドを使用してください。

この制限への対処として、追加または削除サブ操作の代わりに、LDAP の変更操作の置換サブ操作を代用することができます。機能面での支障は発生しません。また、変更後の DSA 設定の状態が予想しやすくなります。

Windows システムで Directory Server が Start TLS 操作をデフォルトで許可しない

この問題点は、Windows システム上のサーバーインスタンスのみに影響します。この問題の原因は、Start TLS 操作を使用するときの Windows システム上のパフォーマンスです。

この問題に対処するには、`dsconf` コマンドで `-P` オプションを指定し、SSL ポートを直接使用して接続することを検討してください。別の方法として、ネットワーク接続がすでにセキュリティー保護されている場合は、`dsconf` コマンドの `-e` オプションの使用を検討してください。このオプションにより、セキュリティー保護された接続を要求せずに標準ポートに接続できます。

存在しないサーバーをレプリケーション更新ベクトルが参照する場合がある
: レプリケートした Directory Server インスタンスをレプリケーショントポロジから削除したあとも、レプリケーション更新ベクトルがそのインスタンスへの参照を維持し続けることがあります。結果として、存在しなくなったインスタンスへのリフェラルが発生する可能性があります。

共通エージェントコンテナがブート時に開始しない
: この問題点に対処するには、ネイティブパッケージからのインストール時に `root` 権限で `cacaoadm enable` コマンドを使用してください。

  Windows 上でこの問題点に対処するには、共通エージェントコンテナサービスのプロパティーから「ログオン」を選択し、サービスを実行するユーザーのパスワードを入力し、「適用」を押します。まだこの設定を行なっていない場合は、アカウント `user name` に「サービスとしてログオン」権利が付与されていることを示すメッセージが表示されます。

`max-thread-per-connection-count` が Windows システムで正しく機能しない
: Directory Server の設定プロパティー `max-thread-per-connection-count` および `ds-polling-thread-count` は、Windows システムには適用されません。

Windows XP 上で、Administrator アカウントで、コンソールにログインできない
: Windows XP 上で実行しているコンソールに管理者アカウントでログインできません。

  この問題に対処するには、ゲストアカウントを無効にして、レジストリキー `HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Lsa\ForceGuest` を `0` に設定してください。

オンザフライでインデックス構成を変更する
: ある属性のインデックス構成を変更すると、フィルタとしてその属性を含むすべての検索は、インデックスが生成されていないものとして処理されます。この属性を含む検索を正しく処理するには、`dsadm reindex` または `dsconf reindex` コマンドを使用して、属性のインデックス構成を変更するたびに既存のインデックスを再生成します。詳細については、『Oracle Fusion Middleware Administration Guide for Oracle Directory Server Enterprise Edition』の第 12 章「Directory Server Indexing」を参照してください。

PTA サーバー上で接続および操作の数を強制できない
: 接続の最大数 (`maxconns`) および操作の最大数 (`maxops`) が PTA サーバー上で強制できません。

ZIP 形式の配布でインストールした場合、Directory Server は共通エージェントフレームワーク (CACAO) のデフォルトとしてポート 21162 を使用する
: 共通エージェントフレームワーク (CACAO) のデフォルトポートは 11162 です。ネイティブ配布でインストールした場合、Directory Server はこのデフォルトポートを使用します。しかし、ZIP 形式の配布でインストールした場合、Directory Server はデフォルトでポート 21162 を使用します。DSCC でサーバーインスタンスを作成または登録する場合、正しいポート番号を指定する必要があります。

Directory Manager のパスワードに空白文字が含まれていると、コンソールで Directory Server または Directory Proxy Server のインスタンスを作成できない。(6830908)

Directory Manager のパスワードに空白文字が含まれていると、Directory Manager アカウントでコンソールを使用してディレクトリサーバーまたはディレクトリプロキシサーバーのインスタンスを作成できません。

同じ問題により、パスワードファイルに空白文字が含まれていると、コマンド `dsccsetup ads-create –w` *password-file* が失敗します。

Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) の既知の問題点

この節では、Directory Server 11*g* Release 1 (11.1.1) のリリース時に判明していた問題点の一覧を示します。

4678334 オンラインでのエクスポート、バックアップ、復元、またはインデックス生成の実行中にサーバーを停止したときに Directory Server がクラッシュする現象が確認されています。

4979319 Directory Server の一部のエラーメッセージで、実際には存在しないデータベースエラーガイドに言及しています。クリティカルなエラーメッセージの意味が理解できず、そのメッセージについての記述がドキュメントに存在しない場合は、Oracle サポートまでお問い合わせください。

6235452 Directory Server で LDIF からエントリをインポートするときに、`createTimeStamp` および `modifyTimeStamp` 属性が生成されません。

LDIF インポートは高速化のために最適化されています。そのため、インポート処理ではこれらの属性を生成しません。この制限に対処するには、エントリをインポートする代わりに追加してください。インポートを実行する前に LDIF を前処理して属性を追加する対処策もあります。

6245092 `stop-slapd` コマンドを実行すると、Directory Server がハングアップします。

6276634 属性のスキーマ定義を複数値から単一値に変更したあと、その属性に対する変更置換操作が拒否されます。

このような変更のあとで潜在的な問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. 追加のデータをレプリケーションなしでエクスポートします (`dsadm export -Q ...`)。

2. 結果として作成された LDIF ファイルからデータを再度インポートします。

   スキーマとの互換性がなくなったエントリがスキップされる場合もあることに注意してください。

3. トポロジ内のほかのレプリカを再度初期化します。

6401484 送信先サフィックスに対して SSL クライアント認証を使用するとき、`dsconf accord-repl-agmt` コマンドがレプリケーションアグリーメントの認証プロパティーを整合できません。

この問題点に対処するには、次の手順に従って、サプライヤの証明書をコンシューマ上の設定に格納します。ここで示すコマンド例は、2 つのインスタンスが同じホスト上にあることを前提としています。

1. 証明書をファイルにエクスポートします。

   次の例は、`/local/supplier` および `/local/consumer` に位置するサーバーを対象にエクスポートを実行する方法を示しています。

```
$ dsadm show-cert -F der -o /tmp/supplier-cert.txt \
  /local/supplier defaultCert
$ dsadm show-cert -F der -o /tmp/consumer-cert.txt \
  /local/consumer defaultCert
```

2. クライアントとサプライヤの証明書を交換します。

   次の例は、`/local/supplier` および `/local/consumer` に位置するサーバーを対象に交換を実行する方法を示しています。

```
$ dsadm add-cert --ca /local/consumer supplierCert \
  /tmp/supplier-cert.txt
$ dsadm add-cert --ca /local/supplier consumerCert \
  /tmp/consumer-cert.txt
```

3. コンシューマ上で SSL クライアントエントリを追加します。`usercertificate;binary` 属性に `supplierCert` 証明書を指定し、適切な `subjectDN` を指定します。
4. コンシューマ上でレプリケーションマネージャー DN を追加します。

   `$ dsconf set-suffix-prop` *suffix-dn* `repl-manager-bind-dn:`*entryDN*

5. `/local/consumer/alias/certmap.conf` 内のルールを更新します。
6. `dsadm start` コマンドで両方のサーバーを再起動します。

6410741 Directory Service Control Center では、値を文字列としてソートします。そのため、Directory Service Control Center で数字をソートすると、それらの数字は文字列であるかのようにソートされます。

0、20、および 100 を昇順にソートすると、0、100、20 というリストが得られます。0、20、および 100 を降順にソートすると、20、100、0 というリストが得られます。

6412131 複数バイト文字を含む証明書名は、`dsadm show-cert` *instance-path valid-multibyte-cert-name* コマンドの出力ではドットとして示されます。

6416407 エスケープした引用符またはシングルエスケープしたコンマを含む ACI ターゲット DN を Directory Server が正しく解析しません。次の例に示す変更は構文エラーとなります。

```
dn:o=mary\"red\"doe,o=example.com
changetype:modify
add:aci
aci:(target="ldap:///o=mary\"red\"doe,o=example.com")
 (targetattr="*")(version 3.0; acl "testQuotes";
 allow (all) userdn ="ldap:///self";)
```

```
dn:o=Example Company\, Inc.,dc=example,dc=com
changetype:modify
add:aci
aci:(target="ldap:///o=Example Company\, Inc.,dc=example,dc=com")
 (targetattr="*")(version 3.0; acl "testComma";
 allow (all) userdn ="ldap:///self";)
```

ただし、エスケープしたコンマが 2 つ以上含まれる例は、正しく解析されることが確認されています。

6446318 Windows で、SASL 認証が次の 2 つの理由で失敗します。

- SASL 暗号化が使用されている。

  SASL 暗号化によって生じる問題に対処するには、サーバーを停止し、`dse.ldif` を編集し、次のように SASL をリセットします。

  ```
  dn: cn=SASL, cn=security, cn=config
    dssaslminssf: 0
    dssaslmaxssf: 0
  ```

- ネイティブパッケージを使用してインストールが実行された。

  ネイティブパッケージのインストールによって生じる問題に対処するには、`SASL_PATH` を *install-dir*`\share\lib` に設定します。

6449828 Directory Service Control Center では、`userCertificate` バイナリ値が正しく表示されません。

6468074 設定属性 `passwordRootdnMayBypassModsCheck` を有効に設定したときに、別のユーザーのパスワードを変更するときのパスワード構文チェックをすべての管理者が回避できるようにサーバーの動作が変更されましたが、この属性の名前からはこのことがはっきりわかりません。

6469154 Windows では、dsadm および dpadm コマンドによる出力とヘルプメッセージが、簡体字中国語および繁体字中国語にローカライズされていません。

6469296 Directory Service Control Center では既存のサーバーの設定をコピーできますが、プラグイン設定をコピーすることはできません。

6469688 Windows システムで、LDIF ファイル名に 2 バイト文字が含まれる LDIF を dsconf コマンドでインポートしようとしたときに、インポートが失敗する現象が確認されています。

この問題点に対処するには、2 バイト文字が含まれないように LDIF ファイル名を変更します。

6483290 Directory Service Control Center と dsconf コマンドのどちらを使用しても、無効なプラグイン署名を Directory Server が処理する方法を設定できません。デフォルトの動作では、プラグインの署名の検証は行われますが、署名が有効であることは要求されません。署名が無効な場合、Directory Server は警告をログに記録します。

サーバーの動作を変更するには、cn=config 上で ds-require-valid-plugin-signature 属性と ds-verify-valid-plugin-signature 属性を調整します。どちらの属性も、値 on または off を設定できます。

6485560 Directory Service Control Center では、別のサフィックスにリフェラルを返すように設定されたサフィックスを参照できません。

6488197 Windows システムでのインストール後およびサーバーインスタンス作成後は、インストールおよびサーバーインスタンスのフォルダに対するファイルアクセス権により、すべてのユーザーにアクセスが許可されます。

この問題点に対処するには、インストールおよびサーバーインスタンスのフォルダのアクセス権を変更します。

6488284 HP-UX プラットフォームの場合、次のセクションの Directory Server Enterprise Edition マニュアルページに次のコマンド行からアクセスできません。

- man5dpconf。
- man5dsat。
- man5dsconf。
- man5dsoc。
- man5dssd。

この問題を回避するには、『『Oracle Fusion Middleware Man Page Reference for Oracle Directory Server Enterprise Edition』』のマニュアル

ページにアクセスします。ここから、Directory Server Enterprise Edition のすべてのマニュアルページを PDF 形式でダウンロードできます。

6490557 不正な CoS テンプレートの入力を試みると、Directory Server 6 のバージョンでクラッシュの原因となります。

6490653 Internet Explorer 6 を使用して、Directory Service Control Center 上で Directory Server のリフェラルモードを有効にすると、リフェラルモードの確認ウィンドウが小さいために、テキストの一部が切れて表示されません。

この問題点に対処するには、Mozilla Web ブラウザなどの別のブラウザを使用します。

6491849 レプリカをアップグレードし、新しいシステムにサーバーを移動したあと、新しいホスト名を使用するレプリケーションアグリーメントを再作成する必要があります。Directory Service Control Center では、既存のレプリケーションアグリーメントを削除できますが、新規アグリーメントを作成することはできません。

6492894 Red Hat システムでは、`dsadm autostart` コマンドによって、ブート時に確実にサーバーインスタンスが起動されるとは限りません。

6494997 DSML を設定している場合、`dsconf` コマンドは、適切な `dsSearchBaseDN` 設定を要求しません。

6495004 Windows システムでは、インスタンスの basename が `ds` である場合、Directory Server が起動に失敗する現象が確認されています。

6497894 `dsconf help-properties` コマンドは、インスタンス作成後にのみ正しく機能するように設定されています。また、オンラインマニュアルで、`dsml-client-auth-mode` コマンドのデフォルト値が間違って記述されています。正しい値のリストは `client-cert-first | http-basic-only | client-cert-only` です。

6500936 ネイティブパッチ配布では、アクセスログのフィルタリング用の日付選択に使用するミニチュアカレンダが、繁体字中国語に正しくローカライズされていません。

6501320 カスタムスキーマのインデックスの作成中に、*all-ids-threshold* のサフィックスレベルの変更が DSCC によって完全に反映されません。

6503509 `dsccmon`、 `dsccreg`、`dsccsetup`、および `dsccrepair` コマンドによって表示される一部の出力がローカライズされていません。

6503546 システムのロケールを変更してから DSCC を起動しても、ポップアップウィンドウのメッセージが選択したロケールで表示されません。

6504180 Solaris 10 の英語および日本語ロケールで、DN に複数バイト文字を持つインスタンスの場合にパスワード確認が失敗します。

6504549 `ns-slapd` プロセスが `rsh` を使用してリモートで開始された場合、Java Enterprise System Monitoring Framework による Directory Server のインスタンスの検出に成功しません。

6507312 HP-UX システムでは `gdb` での調査のあと、NSPR ライブラリを使用したアプリケーションがクラッシュしてコアダンプします。この問題は、`gdb` を実行中の Directory Server インスタンスに接続したあと、`gdb quit` コマンドを使用した場合に発生します。

6520646 Internet Explorer を使用しているときに「DSCC オンラインヘルプの参照」をクリックしても、オンラインヘルプが表示されません。

6527999 Directory Server のプラグイン API には、`slapi_value_init()()`、`slapi_value_init_string()()`、および `slapi_value_init_berval()()` 関数が含まれています。

これらすべての関数が内部要素をリリースするためには「done」関数が必要になります。しかし、パブリック API に `slapi_value_done()()` 関数がありません。

6541040 Directory Service Control Center を使用してパスワードポリシーを変更しているときに、変更されていない属性が予期せずリセットされることがあります。

Directory Service Control Center を使用してデフォルトパスワードポリシーを管理すると、エラーは発生しません。しかし、Directory Service Control Center を使用して特別なパスワードポリシーを管理すると、変更されていない属性がリセットされる可能性があります。

6542857 Solaris 10 で Service Management Facility (SMF) を使用してサーバーインスタンスを有効にした場合、システムをリブートしてもインスタンスが起動しないことがあり、次のエラーを返します。

```
svcadm: Instance "svc:/instance_path" is in maintenance state.
```

この問題を回避するには、ローカルユーザーを使用して Directory Server および Directory Proxy Server サービスを作成します (つまり、NIS ユーザーではなく、そのマシンでローカルに定義されているユーザー)。

6547992 HP-UX では、`dsadm` および `dpadm` コマンドで `libicudata.sl.3` 共有ライブラリが検出されない可能性があります。

この問題を回避するには、`SHLIB_PATH` 変数を設定します。

```
env SHLIB_PATH=${INSTALL_DIR}/dsee6/private/lib dsadm
```

6551685 `dsadm autostart` によって、システムのリブート時にネイティブの LDAP 認証が失敗することがあります。

この問題を回避するには、リブートスクリプトの順序を逆にします。デフォルトの順序は `/etc/rc2.d/S71ldap.client` および `/etc/rc2.d/S72dsee_directory` です。

6557480 Solaris 9 および Windows では、Web Archive (WAR) ファイルを使用して構成されたコンソールからオンラインヘルプにアクセスすると、エラーが表示されます。

6559825 レプリケートされたサフィックスのあるサーバーで DSCC を使用してポート番号を変更すると、サーバー間のレプリケーションアグリーメントを設定する場合に問題が発生します。

6571038 すべてのインスタンス (0.0.0.0) 上で待機していると DSCC で登録したサーバーに対して `dsconf` を使用してサーバーの待機アドレスを変更しようとすると、DSCC エラーが発生します。

SSL ポートのみとセキュリティー保護された待機アドレスを Directory Server Enterprise Edition で設定するには、次の回避方法を実行します。

1. サーバーを DSCC から登録解除します。

   ```
   dsccreg remove-server /local/myserver
   ```

2. LDAP ポートを無効にします。

   ```
   dsconf set-server-prop ldap-port:disabled
   ```

3. セキュリティー保護された待機アドレスを設定します。

   ```
   $ dsconf set-server-prop secure-listen-address:IPaddress
   ```

   ```
   $ dsadm restart /local/myserver
   ```

4. DSCC を使用してサーバーを登録します。「サーバーの登録」ウィザードでサーバーの IP アドレスを指定します。この操作を元に戻すことはできません。

6587801 version 6.1 以降の `dsadm` コマンドと Directory Service Control Center は、version 6.0 の `dsadm` コマンドで作成された Directory Server インスタンスの組み込みの CA 証明書を表示しません。

この問題に対処するには、次を実行します。

`modutil` の 64 ビットバージョンとともに 64 ビットモジュールを追加します。

```
$ /usr/sfw/bin/64/modutil -add "Root Certs 64bit" \
-libfile  /usr/lib/mps/64/libnssckbi.so -nocertdb \
-dbdir /instance-path/alias -dbprefix slapd- -secmod secmod.db
```

6630897 `dsadm show-*-log l` コマンドの出力に正しい行が含まれていません。以前にローテーションされたログの最終行を含んでいる可能性があります。

6630924 ログのいくつかの行に 1024 文字以上の文字が含まれている場合、`dsadm show-*-log` コマンドの出力が正しくありません。

6637242 WAR ファイルの配備後、「トポロジの表示」ボタンが機能しない場合があります。`org.apache.jsp.jsp.ReplicationTopology_jsp._jspService` に基づいた Java の例外が起きることがあります。

6640755 Windows の韓国語ロケールで `ns-slapd` が開始に失敗すると、`dsadm start` コマンドが `nsslapd` エラーログを表示しません。

6648240 Directory Service Control Center で「インデックス」タブの「追加のインデックス」テーブルの属性を変更または削除すると、ブラウザが更新されるまで無効な情報が表示される可能性があります。

6720595 UNIX システムで、`dsconf set-log-prop` または DSCC を使用してログファイルのパスを変更しようとする試みが、ログファイルの新しいパスがまだ存在していない場合に失敗します。

6750837 Microsoft Windows のネットワークドライブの仕様が大文字と小文字を区別します。このため、たとえば `C:/` と `c:/` の両方を使うと、マスターの再起動後に DSEE 管理コマンドが原因でレプリケーションが失敗する場合があります。この問題を回避するには、`dsconf accord-repl-agmt` コマンドを使用してレプリケーションアグリーメントを修正します。

6751354 Microsoft Windows のネットワークドライブの仕様が大文字と小文字を区別します。このため、たとえば `C:/` と `c:/` の両方を使うと、DSEE 管理コマンドによって、次に示すようなさまざまなエラーメッセージが表示される場合があります。

```
WARNING<4227> - Plugins - conn=-1 op=-1 msgId=-1 -
Detected plugin paths from another install, using current install
```

この警告が表示されないようにするには、一貫して `C:/` を使用します。

6752625 DSCC のオンラインヘルプから不明な Web ページにリンクされる場合があります。特に、一部のウィザードメニューで次のような記述があります。

```
For more information about data source configuration,
see the "Oracle Directory Server Enterprise Edition Reference."
```

この Directory Server Enterprise Edition リファレンスドキュメントへのリンクを選択すると、エラーメッセージが表示されます。

この問題を回避するには、3 番目のマウスボタンでこのリンクを選択して、ポップアップメニューから「Open Link in New Window」を選択します。選択したドキュメントが新しいブラウザウィンドウに表示されます。

6776034 DSCC エージェントを Solaris 9 上の CACAO に登録できません。`SUNWxcu4` パッケージがシステムに存在しない場合、「`Failed to configure Cacao.`」というエラーが表示されコマンド *DSEE_HOME*`/dscc6/bin/dsccsetup cacao-reg` が失敗します。

この問題を修正するには、不足していた `SUNWxcu4` のパッケージをシステムにインストールします。

6783994 `ldapcompare` コマンドの `-f` オプションが正しく動作しません。

6845087 Windows で、CLI の表示が文字化けします。

6853393 DSCC がホストのシノニムをサポートしません。DSCC サフィックスをレプリケートする場合、レプリケーションアグリーメントのホスト名は DSCC レジストリ内のホスト名と一致する必要があります。

6867762 `rotation-time` または `rotation-interval` に従ってログのローテーションが行われる場合、ローテーションが発生する正確な時刻は、次のようないくつかの変数に依存します。

- `rotation-time`、`rotation-interval`、`rotation-now`、および `rotation-size` プロパティーの値
- ハウスキーピングスレッドのスケジュール
- ローテーション条件が満たされたときのログファイルの実効サイズ

したがって、ローテーションされたログファイルの *timestamp* (たとえば、`access.`*timestamp*) は保証されません。

6876315 `dsmig` コマンドを実行しているユーザーが対象となるディレクトリサーバーインスタンスを保持していない場合、移行ファイルを生成しそのファイルにアクセスするのに必要なアクセス権がないためコマンドが失敗します。

対象となるディレクトリサーバーを保持し、少なくともソースディレクトリサーバーへの読み取りアクセス権を持っているユーザーが `dsmig` コマンドを実行した場合は成功します。こうした条件を満たせない場合、データベースをエクスポートしてから、新しいディレクトリサーバーにインポートすることで移行を実施してください。

6885178 `hosts_access` のマニュアルページに、IPv6 が Windows システムでサポートされていないという誤った記述があります。

6891486 インポート処理が始まった直後、いくつかのデバッグメッセージとエラー `#20502 Serious failure during database checkpointing, err=2 (No such file or directory)` が記録される場合があります。これらのメッセージは削除された古いサフィックスデータを参照しているため、無視しても構いません。

6894136 サーバーインスタンス上のアイドルタイムアウトを 2s などの非常に小さい値に設定した場合、DSCC に接続エラーが表示される場合があり、ログローテーションなどの時間のかかる操作ができなくなります。アイドルタイムアウトの値は 10s や 20s 以上に設定し、ネットワークレイテンシに合わせてタイムアウトを調整してください。

6953929 ログローテーションの進行中に dsadm show-access-log または dsadm show-error-log コマンドを実行すると、サーバーがクラッシュすることがあります。

6955408 Windows システムで dsccsetup dismantle コマンドを実行しても、CACAO Windows サービスは完全には削除されません。

回避方法: dsccsetup dismantle コマンドの実行後、Directory Server Enterprise Edition をアンインストールする前に cacaoadm prepare-uninstall コマンドを実行します。これで、CACAO Windows サービスが削除されます。

6962704 新たな「24 ページの「RFC 4511 への準拠」」の副作用として、複数値属性を使用する検索の一部で、Directory Server の以前のバージョンよりも速度が低下する可能性があります。これを軽減するには、compat-flag を no-rfc4511 に設定するか、ユーザー属性をスキーマで SINGLE-VALUE として宣言します。

6966010 コマンド dsconf help-properties で、部分レプリケーションプロパティーの説明が逆に表示されます。次のように出力されます。

```
repl-fractional-exclude-attr ... Replicate only the specified set of attributes
repl-fractional-include-attr ... Do not replicate the specified set of attributes
```

これは次のようになるべきです。

```
repl-fractional-exclude-attr ... Do not replicate the specified set of attributes
repl-fractional-include-attr ... Replicate only the specified set of attributes
```

第 5 章

Directory Proxy Server の修正されたバグと既知の問題点

この章では、Directory Proxy Server のリリース時点で判明している、製品固有の重要な情報を示します。

この章では、次の内容について説明します。

- 71 ページの「Bugs Fixed in This Release」
- 80 ページの「Directory Proxy Server の既知の問題点と制限事項」

Bugs Fixed in This Release

この節では、Directory Proxy Server 7.0 および Directory Proxy Server 11*g* Release 1 (11.1.1) で修正されたバグの一覧を示します。

バグ ID	説明
6351249	`dpcfg` コマンドで処理されるプロパティーの値が検証されません。
6417166	ディレクトリサーバーはリソース制限ポリシーの `minimum-search-filter-substring-length` プロパティーに従いません。
6446600	ディレクトリサーバーが LDAP ソースからの ACI 通知の変更を処理しない場合があります。
6468142	仮想ビューと LDIF とで、属性名が異なって保存されます。
6468198	ディレクトリサーバーは、値セットのない仮想属性にデフォルトの値を適用するべきです。
6468593	すべての監視要素は、`statusDescription` プロパティーの値セットを持つべきです。
6468694	エントリが存在しない場合、検索操作が完全な情報を返しません。
6469976	`dpadm split-ldif` コマンドは、スキップされたエントリ数など、より多くの統計情報を提供するべきです。

バグ ID	説明
6475156	一部のプロパティーでは、変更を有効にするためにディレクトリサーバーを再起動する必要があるにもかかわらず、`dpcfg` コマンドがプロパティーの値を変更し、`is-restart-required` を false に設定します。
6489771	接続ハンドラが匿名バインドを誤ってバインドします。
6491133	複数バイトの証明書属性が正しく処理されません。
6491845	DSCC は「Controls Allowed Through Proxy」のデフォルト値を表示しません。
6492447	`dpconf` コマンドは、`scriptable-alerts-command` 属性を設定できるべきではありません。
6495493	`SUNWdsee7-config` の位置を変更した場合、`dpadm` コマンドは `SUNWdsee7-config` がインストールされていないというメッセージを記録します。
6520362	`dpconf get-jdbc-data-source-prop` および `set-jdbc-data-source-prop` コマンドは、接続番号プロパティーをサポートするべきです。
6527010	Directory Proxy Server は、テーブル間の多対多 (N:N) の関係を意味する JDBC 属性を JDBC データベースに書き込むことができません。
6527837	プロキシサーバーは LDAP サーバーに対してより少ない初期接続を開くべきです。
6536823	プロキシサーバーがクライアント接続を頻繁に閉じすぎます。
6537654	プロキシサーバーは JDBC バックエンドへの新規接続を頻繁に開きすぎます。
6539650	Linux インストールで、プロキシサーバーが複数バイト DN を作成できません。
6547755	DSCC が複数バイトの証明書名を正しく作成しません。
6550554	`zh_cn/ja` ロケールで、DSCC は複数バイトのプロキシサーバーインスタンスを作成できません。
6554232	プロキシサーバーは、結合データビューでアスタリスク文字 (*) を使って属性の完全なリストを取得できません。
6561139	プロキシサーバーは、SQL 例外のあとで JDBC トランザクションをロールバックできません。
6562213	仮想グループを使用する場合、プロキシサーバーは誤った操作番号を記録する場合があります。
6562601	DSCC は証明書のプロパティーを表示しません。
6567644	プロキシサーバーは誤った要求をデータベースに送信します。
6573259	結合ビューで `ldapsearch` コマンドが失敗した場合、そのエラー出力に内部的にマップされた DN が返されます。
6573264	ベース DN が JDBC ソース内に存在しない場合、`ldapsearch` コマンドはエラー 32 を返すべきです。

バグ ID	説明
6590816	LDAP リスナーで connectionIdleTimeOutInSec プロパティーを設定すると DSCC が失敗します。
6592394	Windows インストールで、dpadm create コマンドが不正な DN を受け入れます。
6594076	DN が LDAP データビューにマップされている場合、変更操作が失敗します。
6596223	誤った filter-join-rule により、SQL エラーが LDAP 結果内に返されます。
6596876	connectionIdleTimeOutInSec 属性の値は、ミリ秒単位ではなく秒単位であるべきです。
6597598	変更操作中に null ポインタ例外が発生する場合があります。
6597608	LDAP トランザクションが部分的にしか成功しない場合があります。
6599118	文字列以外の列を文字列の値で変更すると、SQL エラーメッセージが返されます。
6599722	プロキシサーバーが誤った値を格納する場合があります。
6616197	filter-join-rule の属性が数値以外の場合、二次表に対する書き込み操作が失敗します。
6616898	objectclass 属性を二次データビューに格納できません。
6618968	1 つのエントリが二次ビューから返された場合、結合ビューの最適化は実行されるべきではありません。
6622852	DN 上の def-value の仮想変換が期待どおりに動作しません。
6630730	FailoverLoadBalancingAlgorithm.getSearchConnection で null ポインタ例外が発生します。
6637173	要求された二次属性にアクセス権が存在しない場合、エントリの DN が返されません。
6637608	負荷の高い状態で、ArrayIndexOutOfBoundsException および NegativeArraySizeException エラーが発生する場合があります。
6638374	エントリの UID 属性に大文字が含まれている場合、そのエントリを結合ビューから追加できません。
6639044	単一行の表にマップされた値のない属性を変更および削除しようとすると、不正なリターンコードが返されます。
6639635	単一行の表にマップされていない値に対する変更および置き換え操作が失敗します。
6640879	検索ベースに attr-name-mapping のソースを使用している場合、プロキシサーバーはエラー 32 を返すべきです。
6640884	プロキシサーバーは、attr-name-mapping のソースを意味する検索を、ディレクトリサーバーのバックエンドに転送するべきではありません。
6641888	検索操作が、viewable-attr に存在しない属性を含むエントリを返します。

バグ ID	説明
6641925	結合ビューからの追加操作によって、二次 JDBC データソースにエントリが常に作成されます。
6642559	書き込み仮想変換が正しく動作しない場合があります。
6642578	エントリを変更する場合、書き込み仮想変換が期待どおりに動作しません。
6642686	属性に複数の値がある場合、`remove-attr-value` 読み込み仮想変換が正しく動作しません。
6643121	外部キーが `VARCHAR` の場合、`ldapmodify` コマンドが失敗します。
6643181	文字列属性が長すぎる場合に、JDBC データソースで問題が発生する場合があります。
6643701	`maxOperationPerInterval` および `operationRateCheckInterval` プロパティーが期待どおりに動作しません。
6646107	列サイズより長い値を使用している場合に、ADD 操作が失敗する場合があります。
6648665	接続でいずれの操作も実行されていない場合、`max-client-connections` プロパティーが動作しません。
6649071	翻訳された GUI テキストを統一するべきです。
6651837	ユーザー DN が正しく正規化されないため、ACI が失敗します。
6652476	`objectclass:top` またはネーミング属性が存在しない場合、スキーマ検査を有効にすると追加操作が失敗する場合があります。
6653253	`FailoverLoadBalancingAlgorithm` の競合状態が原因で、プロキシサーバーが失敗する場合があります。
6653453	プロキシサーバーを介したディレクトリサーバーへの SSL を使用した持続検索が、期待したデータを返すことができません。
6654625	ガベージコレクションの実行がトリガーされた場合、既存の接続が解除されます。
6656324	プロキシサーバーは、ADD 操作で DN 値を常に小文字に変換します。
6659381	JDK 1.6 を使用した高負荷の検索で、プロキシサーバー JVM が失敗します。
6661001	拒否操作がバックエンドサーバーに転送されます。
6661375	ソケットが `CLOSE_WAIT` 状態のまま変わらない場合があります。
6661474	プロキシサーバーは接続プールの接続番号を誤って計算する場合があります。
6661981	`source-attr` が `client-attr` の部分文字列である場合、`attr-name-mappings` プロパティーを設定できません。
6663112	Linux 64 ビットインストールでは、プロキシサーバーを 32 ビットモードで起動できません。
6665983	オブジェクトクラスの一部ではない属性の変更操作が正常に動作しません。

バグ ID	説明
6670752	プロキシサーバーが次の例外をスローする場合があります: `java.io.IOException: Timeout when waiting to read from input stream`
6671579	仮想化が、検索フィルタ内で仮想的にマップされたベースの解決に失敗します。
6676073	属性の誤った処理が原因で、結合データビューの変更操作が誤って経路指定される場合があります。
6676076	結合データビューの変更操作で null ポインタ例外が発生する場合があります。
6678386	バインドが最大数に達すると、バインド接続が解放されず、それ以降のバインドが実行できません。
6680717	結合ビューで join-rule を省略すると、`StringIndexOutOfBoundsException` が発生する場合があります。
6681502	メモリー監視がデフォルトで無効になっています。
6681932	`remove-attr-value` 書き込み仮想変換が正常に動作しません。
6682004	書き込み `remove-attr-value` 仮想変換のルールは `view-attribute-value` に設定されるべきです。
6686099	ACI が LDAP に格納されていて、その LDAP ソースが利用できない場合にサーバー例外が発生します。
6688180	`cn-monitor` の下でエントリが重複し、`numDroppedOperations` および `receivedOperations` に誤った値が格納されます。
6688187	時間分解能の属性がサーバーを再起動するまで有効になりません。
6689377	デフォルトの参照ポリシーが `discard` に設定されています。
6689466	`dpconf` コマンドが `cert-search-bind-dn` および `cert-search-bind-pwd` プロパティーにアクセスしません。
6689577	`ssl-policy` がデータソースの `client` に設定されている場合、クライアントがプロキシサーバーに平文で接続できません。
6691341	`average-traffic-sampling-interval` を使用した監視が正常に動作しません。
6692090	`operationPerIntervalLastAverage` プロパティーが 1 秒ごとの操作に指定されているのに対し、`operationPerIntervalPeak` プロパティーが間隔ごとの操作に指定されています。
6692627	LDAP ブラウザを使用している場合、検索フィルタのデコード中にエラーが発生する場合があります。
6692693	プロキシサーバーは、`max-op-count-per-interval` を正しく使用しません。
6697494	エントリが存在しない場合、共有属性を結合ビューから削除できません。

バグ ID	説明
6702095	jdbc-attr が既存のオブジェクトクラスの表に追加された場合、そのメタデータが動的に取得されません。
6702169	エントリがデータビューのベース DN から 1 レベル下にない場合、DN の属性値マッピングが正しく動作しません。
6706567	一次ビューベースと二次ビューベースが異なる場合、DN 結合ルールを使用した結合の最適化が正しく動作しません。
6707006	フィルタ結合ルールが結合データビューで正しく処理されません。
6707110	検索フィルタに jdbc-object-class の一部ではない属性が含まれている場合、検索操作が失敗します。
6711054	プロキシサーバーが SQL Server の SQL タイプ smalldatetime をサポートしていません。
6711320	存在しない cn=monitor 子エントリに対する 1 レベル範囲の検索が誤った検索結果を返します。
6713382	DN 正規化が、属性値にあるシーケンス \dd または %dd の変換に失敗します。
6714425	ldapsearch コマンドが引用符で囲まれたアスタリスクを正しく処理しません。
6714448	ldapsearch コマンドは、整数検索で数値以外の文字を誤って処理する場合があります。
6714856	結合データビューで例外が発生する場合があります。
6717836	複数行の主表にある属性を置き換えると、その表にある別の属性を null に設定する場合があります。
6717943	プロパティーのデフォルトのサイズ制限が誤って設定されます。
6720614	プロキシサーバーが起動した際にエラーメッセージが表示されます。
6721702	主表が単一行の表ではない場合、JDBC 検索が失敗する場合があります。
6723858	プロキシサーバーは、バックエンドディレクトリサーバーの requires-bind-password の設定を無視します。
6724559	プロキシサーバーは、許可されないコントロールを含んだ要求をフィルタするべきです。
6727763	複数行の主表にある属性を削除すると、一致するエントリが削除されます。
6728378	DN/オブジェクトクラスルールが指定されていない場合、追加操作中に結合データビューで null ポインタ例外が発生する場合があります。
6728746	プロキシサーバーは、複数のオブジェクトクラスを含むエントリを JDBC ソースに追加できません。
6730825	属性の非表示ルールがルール内のフィルタ属性を返しません。

バグ ID	説明
6731666	プロキシサーバーはデータビューの process-bind 属性値を無視します。
6734365	属性マッピングが、別のデータビューを使用することで消去されません。
6734438	電子メール通知を設定していてメール転送エージェントが利用できない場合、プロキシサーバーが起動時に失敗します。
6734559	仮想属性に依存している場合、仮想 DN マッピングが失敗します。
6734722	バックエンド接続が CLOSE_WAIT 状態のまま変わりません。
6735304	null 値を持つ属性を非表示にできません。
6736621	変換に失敗すると、バインド DN が拒否されます。
6737084	DN が誤ってマッピングされる場合があります。
6739414	プロキシサーバーが属性名の大文字小文字を変更します。
6739456	グループは、設定ファイルおよびログファイルにアクセスできるべきです。
6739974	プロキシサーバーは、属性名マッピングを小文字のみで返します。
6741401	外部キーが複数行の主表に格納されている場合、ldapmodify add 操作が失敗します。
6741403	SELECT 文の中の不正な結合が原因で、ldapsearch コマンドが失敗する場合があります。
6741410	既存の値が属性に追加された場合、TYPE_OR_VALUE_ALREADY_EXISTS メッセージが返されるべきです。
6742935	複数値属性に対して削除操作を実行した場合、NO_SUCH_ATTRIBUTE メッセージが返されるべきです。
6743357	検索フィルタ内に属性フィルタと複数の条件を持つ検索操作によって、エラー 1 が返されます。
6748387	操作によって状態が変更された場合、プロキシサーバーはメッセージを記録するべきです。
6750354	プロキシサーバーは 2048 ビットの keylength を持つ証明書の要求をサポートするべきです。
6751692	MaxTenuringThreshold Java 引数を使用している場合、dpadm start コマンドが失敗します。
6752963	例外メッセージが誤って記録される場合があります。
6754091	filter-join-rule のある結合ビュー操作によって StringIndexOutOfBoundsException が返されます。
6757759	不正な JVM メモリー状態が原因で、プロキシサーバーが失敗する場合があります。

バグ ID	説明
6758244	JDBC ソースに対して、ベーススコープや glue エントリに対する DN フィルタを使用した検索操作は、すべての属性を返すべきではありません。
6758812	`enabled-admin-alert` プロパティーは `none` の値を受け入れるべきで、`all` の値を受け入れるべきではありません。
6759391	`cn=monitor` のインスタンスパスは正規化されるべきです。
6760526	`dppadm start` コマンドによって `DPS.pid` ファイルが生成されるべきです。
6760951	設定スキーマにディレクトリ設定スキーマとの矛盾が含まれています。
6761017	ワークスレッドのデッドロックが発生する場合があります。
6761032	`searchMode` プロパティーが誤って定義されます。
6761875	CPU 使用率が高くなる場合があり、その結果プロキシサーバーの再起動が必要になります。
6764073	プロキシ承認を使用するよう設定した場合、プロキシサーバーが失敗する場合があります。
6766175	`ldapsearch` コマンドによって、JDBC ソースから空の値を持つ属性が返されません。
6767244	結合ビューを使用している場合、プロキシサーバーが二次ビューのバインドに失敗します。
6767776	プロキシサーバーがルート DSE に対して DN マッピングを使用できません。
6768924	プロキシサーバーが仮想変換中の分割されたマクロをマクロとして認識しません。
6778090	結合ビューの仮想属性に対して、比較操作が正常に動作しません。
6778091	結合ビューの二次属性に対して、比較操作が正常に動作しません。
6782659	ソケットが作成されたとき、`SO_KEEPALIVE` オプションが設定されません。
6784464	`dpconf` コマンドは `useTcpKeepAlive` 属性をサポートするべきです。
6794720	JDBC ソースからのデータビューに対する 1 レベル検索が予期しないエラーを返します。
6795597	一次ビューの候補リストが大きい場合、結合データビューに対する検索パフォーマンスが低下します。
6797952	DN マッピングが期待どおりに動作しません。
6801024	起動時の警告メッセージには、警告の原因についてのより詳細な情報が表示されるべきです。
6802371	`acceptBacklog` プロパティーがチャネルベースのリスナーの場合に無視されます。
6807446	結合ビューが大文字小文字を区別する属性値を 2 度返すことがあります。

バグ ID	説明
6808701	バックエンド接続のハートビート停止の送信頻度が不十分です。
6808704	バインドされたバックエンド接続のハートビート停止が送信されません。
6808706	前回のサーバーアクティビティーが原因で、バックエンドサーバーの確認が十分な頻度で実施されない場合があります。
6809099	プロキシサーバーの `cn=monitor` ブランチの `ldapsearch` クエリーで、一貫性のない結果が生成されます。
6813566	`monitoring-interval` および `monitoring-bind-timeout` に対する変更を有効にするため、プロキシサーバーを再起動する必要があります。
6818788	プロキシサーバーはバックエンドハートビートをより確実に提供するべきです。
6819304	ソースのないフェイルオーバープールを定義している場合、`cn=monitor` に対する検索で null ポインタ例外が発生します。
6819752	持続検索クライアントがエントリの変更通知を受信しない場合があります。
6821752	持続検索によって使用されるリソースが、クライアント接続の解除後に消去されません。
6828842	利用可能なバックエンドサーバーがない場合、プロキシサーバーはエラー 1 を返すことがありますが、エラー 52 を返すべきです。
6832043	`useAffinity=false` および `affinityPolicy` が明示的に設定されている場合、クライアントアフィニティーを有効にするべきではありません。
6832498	プロキシサーバーは、署名付き証明書の署名アルゴリズムとして MD5 を使用するべきではありません。
6835898	`dpconf` コマンドは、`Attribute/Entry Hiding` に 1 文字の値を持つ属性を正しく処理しません。
6845410	属性の名前変更によって、一部の BIND DN が壊れる場合があります。
6847524	特殊文字のある DN が、設定ファイルに正しく書き込まれません。
6858276	属性マッピングの際、DN に演算子 + が含まれていると、プロキシサーバーはこの記号を無視し、コンマ (,) で置き換えます。
6870956	データビューを追加または削除すると、メモリーリークが発生します。
6870963	接続ハンドラを追加または削除すると、メモリーリークが発生します。
6870998	別の接続ハンドラに移動するとき、プロキシサーバーはバインド要求のフィルタリングポリシーを無視します。
6877916	二次データビューに存在する属性に対して `ldapcompare` 操作が失敗します。
6889269	複合フィルタの使用時、属性の名前変更が中断します。

バグ ID	説明
6911538	JDBC データベースを積極的に監視すると、使用可能なデータベースカーソルがすべて消費される可能性があります。
6924686	DN に影響を与える仮想変換を使用すると、検索フィルタはこの変換を考慮しないため、検索エントリが欠落します。
6933728	データビューのビューベース DN をリフェラルにマッピングするとき、属性マッピングが正しく動作しません。

Directory Proxy Server の既知の問題点と制限事項

この節では、リリース時点での既知の問題点および制限事項の一覧を示します。

Directory Proxy Server の制限事項

この節では、製品の制限事項の一覧を示します。

ファイルアクセス権を手作業で変更した場合の問題点

インストール済みの Directory Server Enterprise Edition 製品ファイルのアクセス権を変更すると、場合によってはソフトウェアが正常に動作しなくなる可能性があります。製品ドキュメントの指示に従う場合、または Oracle サポートの指示に従う場合のみ、ファイルのアクセス権を変更してください。

この制限事項に対処するには、適切なユーザーアクセス権およびグループアクセス権を持つユーザーとして製品のインストールおよびサーバーインスタンスの作成を行います。

自己署名サーバー証明書を更新できない

自己署名サーバー証明書を作成するときは必ず、その証明書を更新する必要がないように、十分な長さの有効期限を指定するようにしてください。

Directory Proxy Server は、結合データビューの書き込み操作で原子性を保証しない

原子性を保証するには、書き込み操作に結合データビューを使用しないでください。結合データビューで書き込み操作を行う場合は、外部メカニズムを使用して不一致を防止または検出してください。Directory Proxy Server エラーログを監視すると、不一致を監視できます。

マニュアルページのデフォルト値が不正

log-buffer-size (5dpconf) マニュアルページに、アクセスログバッファーの誤ったデフォルトサイズが表示されています。アクセスログのデフォルトバッファーサイズは `1M` です。

パターンマッチング配布アルゴリズムのマニュアルページには、それぞれのプロパティーが単一値として誤って表示されています。これらのプロパティーは複数値です。

Oracle が JDBC ソースの場合、`ldapsearch` コマンドが空の値を持つ属性を返さない
Oracle は空の文字列を null として処理します。空の文字列と null はいずれも LDAP エントリとして有効な値ですが、Oracle で両者を区別することはできません。この問題は、「71 ページの「Bugs Fixed in This Release」」に記載されているとおり、問題 6766175 の別の JDBC ソースのために修正されました。

Directory Proxy Server 11*g* Release 1 (11.1.1) の既知の問題点

この節では、Directory Proxy Server 11*g* Release 1 (11.1.1) のリリース時に判明していた既知の問題点の一覧を示します。

5042517 DN 変更操作が、LDIF、JDBC、結合、およびアクセス制御データビューに対してサポートされていません。

6355714 現在、`getEffectiveRight` コントロールは、LDAP データビューでのみサポートされており、プロキシのローカルである ACI は考慮されません。

6386073 認証局によって署名された証明書の要求が生成されたあとで、更新すると証明書は自己署名済みの証明書として表示されます。

6388022 Directory Proxy Server によって使用される SSL ポートが正しくない場合に、そのポートに対するセキュリティー保護された検索要求のあとで Directory Proxy Server がすべての接続を閉じる場合があります。

6390118 プロキシ承認ではなくクライアントアプリケーション証明書に基づく認証を使用するように設定されたとき、Directory Proxy Server がリフェラルホップ数を正確にカウントできません。

6390220 データビューの作成時には `base-dn` プロパティーを指定できますが、データビューの作成後に `base-dn` プロパティーを "" (ルート DSE) に設定することはできません。

6410741 Directory Service Control Center では、値を文字列としてソートします。そのため、Directory Service Control Center で数字をソートすると、それらの数字は文字列であるかのようにソートされます。

0、20、および 100 を昇順にソートすると、0、100、20 というリストが得られます。0、20、および 100 を降順にソートすると、20、100、0 というリストが得られます。

6439604 アラートを設定したあと、変更を有効にするには Directory Proxy Server を再起動する必要があります。

6447554 Directory Proxy Server で、数値形式または辞書形式のデータ配布を設定したときに、別のデータビューに移動するエントリの名前変更に失敗します。

6461510 Directory Proxy Server では、リフェラルのホップ制限が機能しません。

6469154 Windows では、`dsadm` および `dpadm` コマンドによる出力とヘルプメッセージが、簡体字中国語および繁体字中国語にローカライズされていません。

6488197 Windows システムでのインストール後およびサーバーインスタンス作成後は、インストールおよびサーバーインスタンスのフォルダに対するファイルアクセス権により、すべてのユーザーにアクセスが許可されます。

この問題点に対処するには、インストールおよびサーバーインスタンスのフォルダのアクセス権を変更します。

6488297 Windows では、DSCC の初期化は Administrator ユーザーしか実行できません。

6493349 Directory Service Control Center は、既存の除外されたサブツ リーまたは代替検索ベースの DN を変更するときにコンマを削除します。

6494540 セキュリティー保護されていない LDAP アクセスをはじめて有効または無効にしたあと、変更を有効にするには Directory Proxy Server を再起動する必要があります。

6497547 制限時間とサイズ制限の設定は、LDAP データソースでのみ機能します。

6497992 コマンド `dpadm set-flags cert-pwd-store=off` を使用したあと、Directory Service Control Center を使用して Directory Proxy Server を再起動できません。

6501867 ASCII 文字と複数バイト文字の両方を組み合わせたサーバーインスタンス名とともに `dpadm start` コマンドを使用した場合に失敗する現象が確認されています。

6505112 既存の接続ハンドラに `data-view-routing-custom-list` プロパティーを設定する場合、エスケープが必要な文字 (コンマなど) を含むデータビュー名を使用するとエラーが発生します。

この問題点に対処するには、エスケープが必要な文字を含むデータビュー名を指定しないでください。たとえば、DN を含むデータビュー名を使用しないでください。

6511264 Directory Proxy Server の DN 名前変更機能を使用する際に、同じ DN コンポーネントが繰り返し登場する場合は、それらは一括して変更されることに注意してください。

たとえば、`o=myCompany.com` で終わる DN の名前を、`dc=com` で終わるように変更する場合を考えてみます。たとえ

ば、uid=userid,ou=people,o=myCompany.com,o=myCompany.com のように元のコンポーネントが繰り返されている場合、名前が変更された結果、DN は uid=userid,ou=people,dc=com となり、uid=userid,ou=people,o=myCompany.com,dc=com とはなりません。

6520368 Directory Proxy Server を介して Oracle 9 にアクセスするための JDBC 接続設定は、ドキュメントに記載されている手順どおりではありません。

ホスト myhost、ポート 1537 上で Oracle 9 サーバーが待機し、システム識別子 (SID) MYINST を持つインスタンスが存在する次の設定を考えてみます。このインスタンスには、データベース MYNAME.MYTABLE が含まれています。

一般的には、MYTABLE へのアクセスを設定するには、次のプロパティーを設定します。

- JDBC データソースで、db-name:MYINST を設定します。
- JDBC データソースで、db-url:jdbc:oracle:thin:myhost:1537: を設定します。
- JDBC テーブルで、sql-table:MYNAME.MYTABLE を設定します。

ここまでの設定で機能しない場合は、さらに次のように MYTABLE へのアクセスを設定してみてください。

- JDBC データソースで、db-name:(CONNECT_DATA=(SERVICE_NAME=MYINST))) を設定します。
- JDBC データソースで、db-url:jdbc:oracle:thin:@(DESCRIPTION=(ADDRESS_LIST=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)(HOST=myhost)(PORT=1537))) を設定します。
- JDBC テーブルで、sql-table:MYNAME.MYTABLE を設定します。

6542857 Solaris 10 で Service Management Facility (SMF) を使用してサーバーインスタンスを有効にした場合、システムをリブートしてもインスタンスが起動しないことがあり、次のエラーを返します。

```
svcadm: Instance "svc:/instance_path" is in maintenance state.
```

この問題を回避するには、ローカルユーザーを使用して Directory Server および Directory Proxy Server サービスを作成します。

6547759 HP-UX では、異なるロケールに設定された複数のブラウザセッションによって DSCC にアクセスした場合、DSCC には、ブラウザの設定ロケールと異なるロケールの文字が表示されることがあります。

6551076 マシンに複数のホスト名がある場合、コンソールは Directory Proxy Server インスタンスのバックエンド状態を取得しません。

6573439 DSCC のインスタンスの「詳細な表示オプション」で、「アクセスログ」タブ、「エラーログ」タブ、および「監査ログ」タブの日付がローカライズされていません。

6583798 DSCC を使用してデータソースを作成する場合、`useTCPNoDelay` の値はデフォルトで `false` に設定されます。ただし、`dpconf create-ldap-data-source` を使用してデータソースを作成する場合は、`use-tcp-no-delay` のデフォルト値が `true` に設定されます。

6588319 Tomcat サーバーで構成された DSCC で、「ヘルプ」および「バージョン」ポップアップウィンドウのタイトルに含まれる複数バイト文字が文字化けしています。

6590460 `dpadm show-cert` *dps-instance-path* コマンドの出力で、文字列 `owner` が簡体字中国語および繁体字中国語に翻訳されていません。

6639674 Directory Proxy Server 構成プロパティー `allow-bind-operations` が `false` に設定されている場合、`dpconf` コマンド行引数と `--secure-port` オプションを使用して SSL ポートに接続することはできません。TLS の起動 (デフォルト) またはクリア接続 (`--unsecured` オプション) による接続は可能です。

6640597 `basedn` が元のマシンのものと異なるリフェラルに従って操作している場合、Directory Proxy Server は ADD 操作の DN を変更しません。リフェラルを転送するだけの場合とは対照的に、リフェラルに従うよう設定された Directory Server インスタンスを持つ Directory Proxy Server インスタンスに対して ADD を試行すると、間違った `basedn` により参照したサーバー上で ADD が拒否されます。

`ldapmodify` コマンドを使用して ADD を Directory Server インスタンスに対して直接実行すると、ADD が機能します。

6649984 証明書データベースに長さの短いパスワードを設定しても、警告が行われません。パスワードが短すぎても、Directory Service Control Center によって受け入れられます。`cert` サブコマンドを付けて `dpadm` コマンドを発行すると、コマンドがハングアップする可能性があります。

6689432 `use-cert-subject-as-bind-dn` を `false` に設定する試みが失敗したあとで表示されるエラーメッセージに、間違ったプロパティー名が表示されています。

6696857 Directory Proxy Server インスタンスに DSCC を通じて有効にされた、セキュリティー保護された待機ソケット/ポートのみがある場合で、サーバー証明書がデフォルトではない (たとえば、認証局によって署名された証明書など) 場合、DSCC を使用してインスタンスを管理できません。

この問題を回避するには、プロキシサーバーインスタンスの登録を解除してからふたたび登録します。または、サーバー証明書を使用して、DSCC レジストリ内のプロキシサーバーインスタンスの `userCertificate` 情報を更新します。

6723858 プロキシサーバーは、バックエンドディレクトリサーバーの `requires-bind-password` プロパティーを無視します。

6757756 `dpadm list-running-instances` コマンドは、現在のインストールから起動されたインスタンスの一覧を表示せず、現在のユーザーに属するインスタンスのみの一覧を表示します。

6791946 OpenSolaris では、アラートが発生した場合に Directory Proxy Server はそのアラートを syslog に記録しません。

6874624 廃止された定義が `28pilot.ldif` ファイルに残ります。

この問題を回避するには、`28pilot.ldif` ファイルに次のエイリアス指定を追加します。

```
objectClasses: ( 0.9.2342.19200300.100.4.4 NAME (’newPilotPerson’ ’pilotPerson’) DESC <...>)
```

6874631 `uidObject` オブジェクトクラスがスキーマに存在しません。

この問題を回避するには、`00core.ldif` ファイルに次のオブジェクトクラスを追加します。

```
objectClasses: ( 1.3.6.1.1.3.1 NAME ’uidObject’ SUP top AUXILIARY MUST uid X-ORIGIN ’RFC 4519’)
```

6889439 Directory Proxy Server は、属性 `timeResolutionMode` および `timeResolutionInMillisec` に対するスキーマ違反を表示します。

このメッセージは無害です。この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. jar プログラムに対するアクセス権があることを確認します。このプログラムはすべての JDK インストールに付属しています。
2. Directory Proxy Server インスタンスを停止します。
3. カレントディレクトリを Directory Server インストールディレクトリに変更します。
4. 次のコマンドを実行して、Directory Proxy Server アーカイブからスキーマファイルを抽出します。

```
$ jar xvf dsee7/lib/jar/dps.jar com/sun/directory/proxy/config/config_schema.ldif
```

5. テキストエディタを使用してスキーマファイル `com/sun/directory/proxy/config/config_schema.ldif` を次のように編集します。

a. 文字列 `NAME ( 'useNanoTimeforEtimes' )` を含む属性 `attributeTypes` を削除します。

b. 次の内容で、新しい属性 `attributeTypes` を追加します。

```
attributeTypes: ( "" NAME ( 'timeResolutionInMilliSec' ) DESC '' \
SYNTAX 1.3.6.1.4.1.1466.115.121.1.15 SINGLE-VALUE X-ORIGIN 'DPS' )
```

必ず括弧をスペースで区切ってください。

c. 文字列 `NAME 'topConfigEntry'` を含む属性 `objectClasses` を検索します。

d. この属性の行で、文字列 `useNanoTimeforEtimes` を検索して `timeResolutionMode` に名前を変更します。

e. ファイルを保存して閉じます。

6. 次のコマンドを実行して、スキーマファイルに加えた変更を Directory Proxy Server アーカイブに適用します。

```
$ jar uvf dsee7/lib/jar/dps.jar com/sun/directory/proxy/config/config_schema.ldif
```

6954350 バインド操作に関しては、現在 Directory Proxy Server は Directory Server データストアでのみ正しく動作します。

6955510 `dpadm request-cert` または DSCC を使用して証明書要求を作成するとき、サブジェクト DN を指定しないと、デフォルトのサブジェクト DN は `cn=value,cn=value` になります。証明書要求は警告なしで発行されますが、ほとんどの認証局はこの要求を受け入れません。

同様に、`dpadm request-cert` または DSCC を使用して証明書要求を作成するとき、有効な ISO 3166 国番号を指定しないと、証明書要求は警告なしで発行されますが、認証局はこの要求を受け入れません。

第 6 章

Directory Server Resource Kit の修正されたバグと既知の問題点

この章では、Directory Server Resource Kit のリリース時に入手可能な製品固有の重要情報が含まれています。

この章では、次の内容について説明します。

- 87 ページの「Directory Server Resource Kit で修正されたバグ」
- 87 ページの「Directory Server Resource Kit の既知の問題点と制限事項」

Directory Server Resource Kit で修正されたバグ

この節では Directory Server Resource Kit の前回のリリースから修正されたバグの一覧を示します。

6379087 NameFinder を Windows システム上の Sun Java System Application Server に配備できない現象が確認されています。

6565893 `idsktune` コマンドは、SuSE Enterprise Linux 10 をサポートしていません。

Directory Server Resource Kit の既知の問題点と制限事項

この節では、リリース時点での既知の問題点および制限事項の一覧を示します。

5081543 `searchrate` は、Windows システムで複数のスレッドを使用するとクラッシュします。

5081546 `modrate` は、Windows システムで複数のスレッドを使用するとクラッシュします。

5081549 `authrate` は、Windows システムで複数のスレッドを使用するとクラッシュします。

5082507 `dsmlsearch` コマンドの `-D` オプションは、バインド DN ではなく HTTP ユーザー ID を取ります。

この問題点に対処するには、Directory Server 内の DN にマップされたユーザー ID を指定します。

6393554 NameFinder が、配備のあとにエラーが見つからないページをスローする現象が確認されています。

この問題点に対処するには、`nsDSRK/nf` の名前を `nsDSRK/NF` に変更します。

6393586 NameFinder の「My Selections」リストには、2 名を超えるユーザーを追加できません。

6393596 NameFinder では、「LastName」、「FirstName」、「Email」、および「GivenName」以外のエントリ値を検索できません。

6393599 NameFinder では、グループの検索ができません。

6576045 `modrate` および `searchrate` 起動プログラムを終了しても、実際の `modrate` および `searchrate` の各プロセスは終了しません。

6754994 `idsktune` コマンドが、`getrlimit()` で誤ったシステム制限を表示します。次の警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: processes are limited by RLIMIT_DATA to 2047 MB in size.
WARNING: processes are limited by RLIMIT_VMEM to 2047 MB in size.
WARNING: processes are limited by RLIMIT_AS to 2047 MB in size.
```